

2019

～大阪府環境白書より～



はじめに

大阪の環境は、事業者のご努力や府民のご協力もあり、大気中の窒素酸化物（NO_x）や河川の水質等において、近年着実に改善してきました。しかし、光化学スモッグの原因となる光化学オキシダントや浮遊粒子状物質（SPM）等、改善の必要がある項目もあり、引き続き対策を推進していきます。

また、地球温暖化の進行により、近年、府域においても記録的な豪雨や災害並みの猛暑など、その影響が顕在化しています。地球温暖化対策は取り組むべき喫緊の課題であり、再生可能エネルギーの普及拡大や省エネルギーの促進等、低炭素社会の実現に向け、積極的に施策を進めてまいります。

2019年度の巻頭特集は、G20大阪サミットでも議題となった「海洋プラスチックごみ」をテーマとして、今世界でどのような問題が起こっているのか、世界や日本、ここ大阪で始まりつつあるプラスチックごみ問題の解決に向けた取り組みを紹介しています。

この度作成いたしました「おおさかの環境2019～大阪府環境白書より～」が、大阪の環境の状況や取り組んでいる施策について、府民の皆さんのご理解をより一層深め、将来に向けてより良い環境づくりの一助となれば幸いです。

今後とも「府民がつくる暮らしやすい、環境・エネルギー先進都市」を目指し、「大阪21世紀の新環境総合計画」に基づき、幅広い環境への取り組みを着実に進めるとともに、新たな課題にもしっかりと対応してまいります。

豊かな環境の保全と創造には、行政はもとより、府民や事業者の皆さんと力を合わせて取り組むことが必要です。本府の環境施策に引き続きご理解、ご協力をいただきますよう、お願い申し上げます。

目次

巻頭特集

「海洋プラスチックごみ」	1
--------------	---

序章 おおさかの環境の状況

おおさかの環境の状況	14
------------	----

第1章 計画的な環境政策の推進

1 環境基本条例等の施行	26
2 環境総合計画の推進	27
3 環境総合計画の進行管理	28

第2章 各分野において講じた施策

I 府民の参加・行動	30
II-1 低炭素・省エネルギー社会の構築	34
II-2 資源循環型社会の構築	40
II-3 全てのいのちが共生する社会の構築	46
II-4 健康で安心して暮らせる社会の構築（1）～良好な大気環境を確保するために～	49
II-4 健康で安心して暮らせる社会の構築（2）～良好な水環境を確保するために～	54
II-4 健康で安心して暮らせる社会の構築（3）～化学物質のリスク管理を推進するために～	59
III 魅力と活力ある快適な地域づくりの推進	63
IV 施策推進に当たっての視点	70
V その他（共通的事項）	73

※環境白書の全体版（環境関係データ、講じた施策事業の点検・評価（毎年度サイクル）等）は、「エコギャラリー～おおさかの環境ホームページ～」に掲載しています。

URL: http://www.pref.osaka.lg.jp/kannosuisoken/hakusyo/hakusyo_2019.html

巻頭特集 海洋プラスチックごみ

みなさんは、「海洋プラスチックごみ問題」について知っていますか？ ニュースなどで聞いたことがある方も多いのではないのでしょうか。プラスチック製品は、わたしたちの暮らしには欠かせない便利なものですが、今、プラスチックごみによる海の汚染が世界の大きな問題となっています。本特集では、海洋プラスチックごみ問題とは何か、わたしたちはこの問題の解決に向けて何ができるのかをまとめてみました。みなさんも一緒に考えましょう。

第1章 海洋プラスチックごみ問題ってなに？

プラスチックってどんなもの？

プラスチック製品は、わたしたちの暮らしのどのような場面で使われているのでしょうか？

食器や食品の包装、消しゴムなどの文房具、家電製品の部品、衣類、眼鏡などのレンズ、自動車の乗り物の部品など、さまざまな用途でプラスチック製品が使われています。プラスチックは、軽くて丈夫であること、加工がしやすいことなど、さまざまなメリットがあることから、大量に製造・使用されており、わたしたちの暮らしに欠かせないものとなっています。



暮らしの中のプラスチック製品

画像出典：プラスチック図書館ホームページ

食品・飲料用の容器



食品包装シート・ラップ



文房具・ゲーム機など

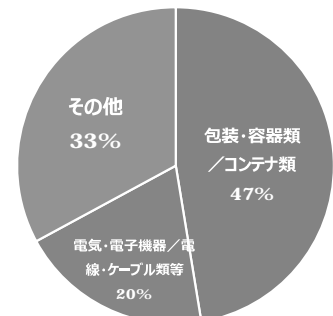
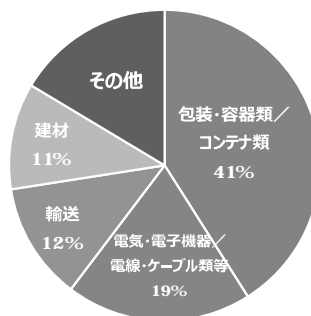


家電・携帯電話など



プラスチック製品の用途別の消費量を見てみると、包装・容器類などが最も多く（41%）、廃棄量でも、包装・容器類が最も多く、約半分を占めています。

包装・容器類には、ペットボトルやレジ袋、食品トレーやストローなどが含まれています。その多くは、一度利用されただけで捨てられるため、「使い捨てのプラスチック（ワンウェイプラスチック）」とも呼ばれています。

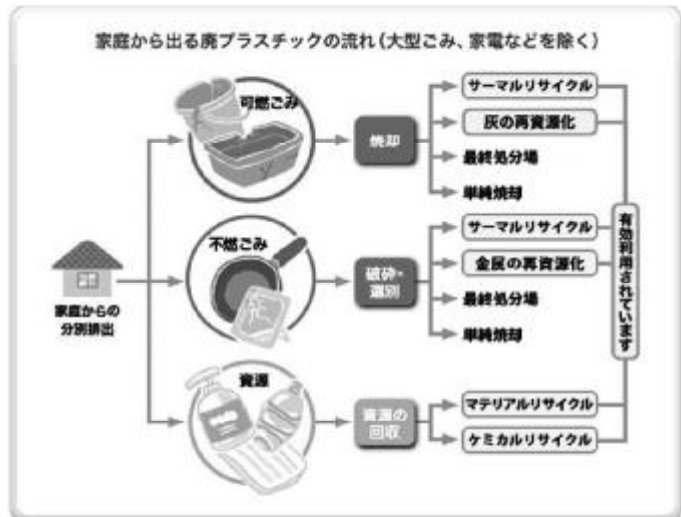


日本におけるプラスチック製品の消費量（左）、廃棄量（右）

（一社）プラスチック循環利用協会 「2019 プラスチック製品の生産・廃棄・再資源化・処理処分の状況」 データよりグラフ作成

役目を終えて不要となったプラスチック製品は、通常、可燃ごみ・不燃ごみ・資源回収のいずれかの方法で回収・処理されています。回収方法は自治体によって異なりますが、可燃ごみ・不燃ごみとして回収されたものは、選別、破碎、焼却などの処理を経て、サーマルリサイクル（焼却の際に発生する熱エネルギーを回収、利用）されたり、処分場に埋立てするなどされます。また、資源として回収されたものは、他のプラスチック製品にリサイクルされたりしています。

このように、日本では、ごみの分別・回収・リサイクルのシステムが整っています。それでも、適切に処分されず、環境中に流出してしまうプラスチックごみも少なくありません。流出したプラスチックごみの多くは、最終的に海に行きつき、「**海洋プラスチックごみ**」となり、地球規模の環境問題となっています。



画像出典：一般社団法人プラスチック資源利用協会

世界でどんな問題が起きているの？

では、海洋プラスチックごみは、どんな問題を引き起こしているのでしょうか？

ひとつは、海の生き物への影響です。魚はもちろん、海鳥や、ウミガメ、クジラなどの海にすむ様々な生き物が、漂流するプラスチックごみを餌と間違えて食べたり、漁網などに絡まったりして、傷つけられ、死んだりするなど、深刻な影響が生じています。また、海岸に打ち上げられたごみによる景観の悪化、ごみによる漁業道具の破損などの経済的な影響も生じています。

生き物への影響



漁網が絡まったウミガメ

写真出典：NOAA（アメリカ海洋大気局）
プラスチックの網や袋が体に絡みついて、自由に動けなくなったり、傷ついたりして弱っていきます。



太平洋のミッドウェー環礁で見つかったアホウドリの死骸

写真出典：NOAA（アメリカ海洋大気局）
餌と間違えて捕食したプラスチックで胃が満たされ、死に至ります。

経済活動への影響



漁網に絡まるプラスチックごみ

写真出典：関西広域連合
プラスチックごみにより、漁網が破れたり、船舶のプロペラが破損するなどしています。

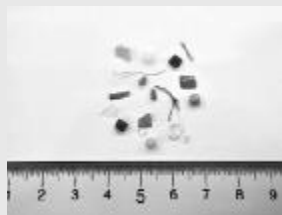


大阪湾の海岸に漂着したプラスチックごみ

海ごみにより海岸の景観が損なわれます。ごみを回収する市町村などの負担増加にもつながります。

さらに、これらの海洋プラスチックごみの多くは、自然分解されず、その多くが数百年以上もの間、残り続けます。その間に波や紫外線などの影響を受けると、やがて細かな粒子となります。5mm以下のプラスチックは、「マイクロプラスチック」と呼ばれています。このマイクロプラスチックによる生き物への影響も懸念されています。

コラム マイクロプラスチックによる影響



マイクロプラスチック

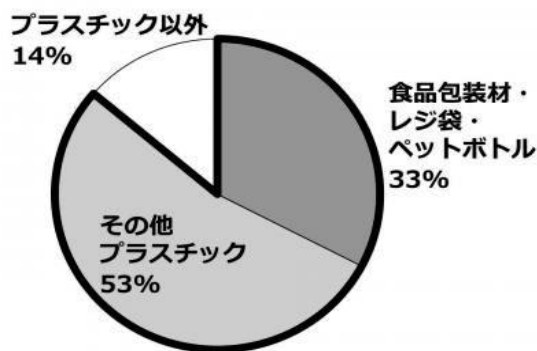


魚などの海の生物がマイクロプラスチックを餌と間違えて食べることで、吸着した化学物質が取り込まれ、食物連鎖を経て、生態系に影響を及ぼすことが心配されています。

どんなプラスチックごみが見つかっているの？

では、海ではどのようなプラスチックごみが見つかっているのでしょうか？ 2015年に環境省が大坂湾で調査した結果によると、漂流ごみ全体の約8割をプラスチックごみが占めていました。そして、全体の約3割が食品包装材、レジ袋、ペットボトルなどの「使い捨てプラスチック製品」でした。

割合は場所により異なるものの、こうしたプラスチックごみは、世界各地の海で見つかっています。その量は、合計1億5,000万トンとも推計されており、さらに、少なくとも年間800万トンが新たに海に流入していると推定されています。2016年の世界経済フォーラムでは、このままのペースでごみが増え続ければ、2050年までに海洋プラスチックごみの量は、重量で「世界の海の魚の量を超える」という驚きの試算が報告されました。



漂流ごみの種類別割合（1平方キロメートルあたりの人工物の個数）（2015年度 環境省調査より府作成）

コラム こんなところからも？！

国立研究開発法人海洋研究開発機構による調査では、水深 1 万メートルを超えるような深海からもプラスチックごみが見つかっています。一度深海まで運ばれたプラスチックごみを回収することはできません。



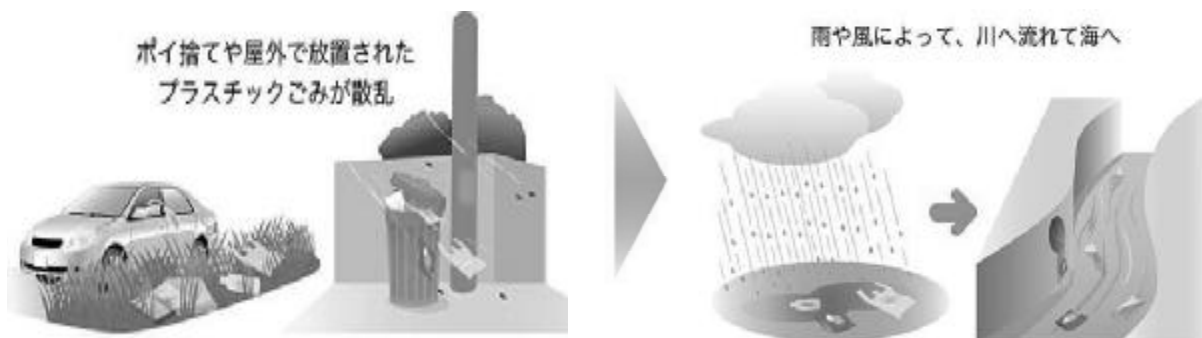
水深 6000m を超える深海で見つかったマネキンの頭

(右は、同じ場所で 1 年後撮影) 写真出典：海洋研究開発機構深海デブリデータベース HP

プラスチックごみはどこからやってくる？

では、海で見つかるプラスチックごみはどこから来るのでしょうか？ 実は、直接、海岸や海に捨てられるよりも多くのごみが、「陸」から来ていると言われています。どのようにでしょうか？

街中でポイ捨てされたごみ、屋外に放置されたごみ、これらが雨や風によって川にたどり着き、流されて、やがて海に到達します。海のごみ全体のおよそ「7割」が、そのようにして陸で発生し、川を通じて流れてきたごみであると言われています。

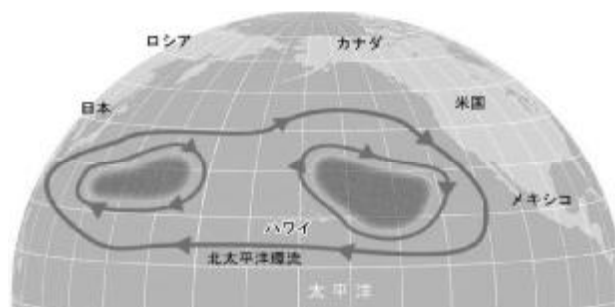


画像出典：政府広報オンライン

一度、海に流れ出たプラスチックごみは、近くの海岸に漂着することもあれば、風や海流によって、はるか遠くまで運ばれることもあります。太平洋には、海流などの影響により、ごみが集まりやすい海域があり、太平洋ごみベルト「プラスチックスープの海」とも呼ばれています。その広さは 100 万 km² (日本の面積の約 4 倍) とも言われており、プラスチックごみはその海域を漂流し続け、そこに住む生き物たちに深刻な影響を与えています。

プラスチックはとても便利で、暮らしに欠かせないものです。一方で、使い終わった後のごみをポイ捨てするなど不用意に扱うことが、海洋プラスチックごみ問題の主な原因となっています。

ですから、ポイ捨てしないことに加え、安易な使い捨ての習慣を見直し、プラスチックの利用を減らしていくことも重要です。



太平洋を循環するプラスチックごみ

画像出典：「環境省平成 29 年度漂着ごみ対策総合検討業務」

第2章 プラスチックごみを減らすために

世界や日本、ここ大阪でも、プラスチックごみ問題の解決に向けて動き始めています。本章では、どのような取組みが行われているのか、様々な視点から見ていきましょう。

プラスチックごみ削減に向けて ～世界と日本の動き～

世界

世界では、この問題について話し合いが行われてきました。2015年に開催されたG7（世界主要国の首脳会議）エルマウ・サミットでは、「**海洋ごみが世界的な課題であること**」が提起されました。2018年のG7シャルルボワ・サミットでは、プラスチック削減などに関して具体的な数値目標を定めた「**海洋プラスチック憲章**」が提案され、カナダ及び欧州各国が署名しました。

2019年6月に大阪で開催されたG20大阪サミットでは、2050年までに海洋プラスチックごみによる追加的な汚染をゼロにまでする、「**大阪ブルー・オーシャン・ビジョン**」が共有されました。

また、使い捨てプラスチック削減などの具体的な取組みとして、EUでは、2018年1月に「EUプラスチック戦略」を策定し、EU加盟国では、ストローや食器など10品目の使い捨てプラスチック製品の販売を禁止するなどの法律整備を今後進めることとしています。



G20 大阪サミット

画像出典：外務省 HP

日本

日本では、2019年5月に「**プラスチック資源循環戦略**」を策定し、レジ袋などの使い捨てプラスチックを2030年までに累積25%削減することや、環境にやさしいバイオプラスチックを普及させていくことなどに取り組んでいくこととしました。この戦略に基づいて、2020年7月からはレジ袋の有料義務化が始まります。

コラム G20 大阪サミットの取組み

G20大阪サミットでは、会場内で、使い捨てプラスチック製品を使用・提供しないこととし、木や紙の食器が使用されたり、飲み物もボトル缶やサーバーなどで提供されました。

また、配布された記念品も、プラスチック製ではない帆布製のバッグや、プラスチックの代用品となる日本発の新素材「LIMEX（ライメックス）」で作られた文房具などが配られました。

サミットバッグ

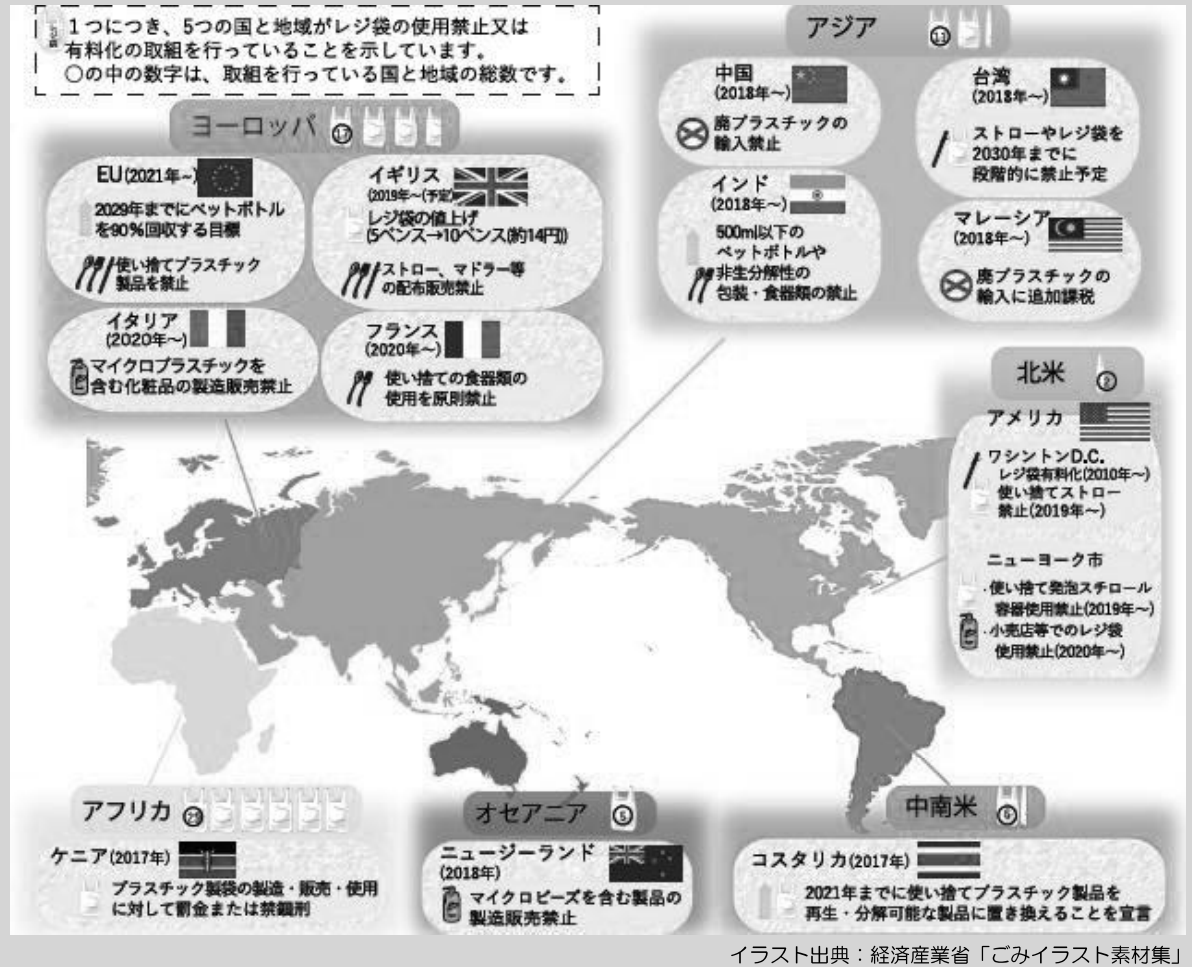
脱プラスチック素材を使ったバッグで、モノづくりの街・大阪のなかでも、特に多くの企業が集中する東大阪で作られました。



記念品のサミットバッグ

画像出典：外務省 HP

コラム 世界に広がるプラスチックに関する使用や製造規制の動き



企業でも、プラスチック製ストローの使用を中止したり、プラスチック製包装の素材を変えるなど、使い捨てプラスチックの削減、リユース、リサイクルに向けた自主的な取組みが始まっています。

企業の取組み例

環境省作成資料より抜粋

企業	取組み例
ネスレ	2025年までに包装材料を100%リサイクル・リユース可能にする長期的目標
スターバックスなど	プラスチック製の使い捨てストローの使用を2020年までに世界中の店舗で全廃すると発表
ディズニー	2019年までに世界中で運営する全施設で使い捨てプラ製ストロー及びマドラーの使用禁止
アディダス	海洋から収集されたプラスチックごみの再生による靴の製造



キットカットの包装紙がプラスチックから紙素材に変わりました。



海洋ごみからリサイクルされた繊維等で製造された靴

プラスチックごみ削減に向けた動き ～大阪もがんばってるで！！～

ここからは、大阪府内の企業・NPO などのプラスチックごみ削減に向けたさまざまな取り組みについて分野別に紹介します。

- 減らす**：プラスチックの使用を減らす取組み
- 再利用**：繰り返し使う、原材料として再利用する
- 研究**：プラスチックごみ削減・代替素材に関する研究
- 拾う**：プラスチックごみを含む環境中のごみを拾う
- 伝える**：プラスチックごみ問題について伝える

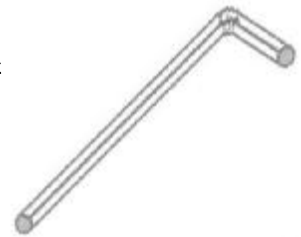


減らす

使い捨てのプラスチックの使用を減らす取組みが始まっています。例えば、餃子の王将を展開する王将フードサービスは、国内の全 729 店舗で石油由来のプラスチック製ストローとスプーンを廃止することを表明するなど、外食・小売業界を中心に取組みが始まっています。身近なお店でも、取組みが始まっているかもしれません。

トピック 環境にやさしいストロー

プラスチック製ストローの使用を廃止して、代わりに生分解性（植物由来の樹脂）の原料を使用したストローなどを導入する動きが広がっています。生分解性のストローは、微生物の働きで、最終的に水と二酸化炭素に分解され、自然界へ循環するため環境にやさしいストローと呼ばれています。



コラム バナナの葉で食品包装

タイやベトナム等の東南アジアの一部地域のスーパーでは、プラスチックごみ削減のため、食品包装にバナナの葉を使用することもあります。バナナの葉は大きくて丈夫なので、包装に適しているようです。世界各地で、その国特有のものを使って包装すれば、楽しくプラスチック使用削減ができそうです。



再利用

製品を繰り返し使用（リユース）したり、原料として再び利用（リサイクル）したりすることにより、プラスチックごみを減らすことができます。例えば、イベントなどでは、たくさんの使い捨てのプラスチック製食器が使用されますが、繰り返し使うことができる「リユース食器」を導入して、ごみを減らす取組みが始まっています。

トピック 大阪の誇りとなるきれいな天神祭を目指す ～天神祭ごみゼロ大作戦実行委員会～

天神祭は東京の神田祭、京都の祇園祭とともに日本三大祭りの一つであり、名実ともに日本最大の歴史ある神事です。天神祭ごみゼロ大作戦実行委員会では、「エコステーションの設置」によるごみの分別回収、リユース食器の導入により、祭で出たごみの発生抑制に取り組んでいます。こうした取組みにより、2018 年は前年度と比べて 13.8 トンの廃棄物が削減（22.5%）されました。



リユースカップ・食器



分別・回収エコステーション



回収されたリユース食器

写真出典：天神祭りごみゼロ大作戦実施報告書 2018

伝える

海洋プラスチックごみ問題の現状や取組みの大切さについて伝えるため、行政・NPO・企業などによるイベントやシンポジウムなどの取組みが始まっています。みなさんも地域で行われるイベントなどに参加されてみてはいかがでしょうか。

トピック

海遊館で学ぼう！ "未来の環境のためにできること"

海遊館では2018年4月から、「新体感エリア」にて、シンベエザメの胃から見つかったプラスチック製の櫛（くし）などを紹介し、地球規模の海洋環境問題となっているプラスチックごみについて考える機会を創出するため、持続可能な開発目標（SDGs）やエシカル消費などを普及啓発する新コーナーを設置しています。



展示コーナー

コラム 「プラスチックごみゼロ」を歌で伝える

大阪市鶴見区の3高校（市立鶴見商業、市立汎愛、府立茨田）の軽音楽部が、プラスチックごみゼロを呼びかけるオリジナルソングを作成しました。歌詞には、壊れたパンケースを修理して使うリユースなどが盛り込まれています。

天王寺動物園で2019年10月5日に開催された「もずやん誕生日イベント」にステージ出演し、プラスチックごみ削減の取組みの大切さを伝えました。



もずやん誕生日イベントでの演奏

プラスチックごみゼロ 歌 🔍

捨 う

海岸や河川にすでに流れ出てしまったごみを回収する取組みが、市町村や企業、NPO、ボランティアの皆さんなどによって、多くの地域で行われています。みなさんも地域で行われる清掃活動に参加されてみてはいかがでしょうか。

トピック

海洋ごみについて知ろう！ スポ GOMI大会 ～泉大津市～

「スポ GOMI」とは、スポーツと GOMI（ごみ）拾いをかけた造語です。チームで力を合わせ、制限時間内に定められたエリア内でごみ拾いを行い、拾ったごみの量と質でポイントを競い合うスポーツの事です。子どもから大人まで年齢を問わず、楽しみながらごみ拾いができます。



スポ GOMI大会で集められたチームごとのごみ

コラム スウェーデン発 プロギングとは？

プロギングとは、スウェーデン語で「集める」という意味の *plocka* と *jogging* をかけ合わせた造語です。ごみ袋をもって、ジョギングをしながらごみ拾いをする運動です。袋一杯のごみを持って帰ること、ごみ拾いでかがむ運動をすることによって、普通に走る以上にカロリーが消費されるようです。環境にも健康にもよいこの運動、じわじわと世界各地でブームとなりつつあるようです。



研究

海の中でも分解されるプラスチックなど、環境にやさしい新しい素材の研究が企業や大学などで行われています。プラスチックは有用な素材ですが、近い将来、新しい素材がとってかわることがあるかもしれません。

トピック 「ペットボトルを食べる細菌を発見」

ペットボトルの原料であるPET(ポリエチレンテレフタレート)を分解する細菌が、自然界から発見され、注目されています。発見された細菌は、大阪府堺市内で採取されたサンプル由来であることから、イデオネラ・サカイエンシスと命名されました。これまで自然界での生物による分解がされないと考えられてきたPETですが、さらに研究が進めば、環境に負荷をかけないリサイクルが可能になるかもしれません。



コラム 食べられる容器？

イギリスのロンドンで行われるマラソン大会で海藻から作られた食べられる液体カプセルが配られました。もし食べずに捨てたとしても1か月程で生分解されます。この技術が発展すれば、ペットボトルがなくなる日が来るかもしれません。



このように、プラスチックごみの削減に向けて、さまざまな取組みが始まりつつあります。

しかし、1章でも見たように、プラスチックはわたしたちの暮らしに欠かせないものとなっています。日本では、1人当たりの容器包装等プラスチックの発生量が世界で2番目に多いとも言われています。プラスチックに代わる素材の開発や利用も進められていますが、性能、安全性、製造コストなど、まだまだ解決すべき課題は残されています。

ですから、まずは使い捨てプラスチック製品の使用を減らすことから始めることが大切です。そのためには、わたしたち一人一人が「プラスチックが当たり前」の意識を変えることにより、社会を少しずつ変えていく必要があります。

プラスチックごみゼロに向けて

大阪府では、2019年G20大阪サミット及び2025年大阪・関西万博の開催地として、海洋プラスチックごみ問題にしっかりと取り組んでいくため、2019年1月28日に大阪市と共同で「**おおさかプラスチックごみゼロ宣言**」を行いました。たくさんの市町村、業界団体、NPO、企業のみなさまにも宣言の趣旨に賛同いただき、一緒にプラスチックごみ削減に向けて取り組んでいます。

みなさんも、プラスチックごみゼロに向け、出来ることから一緒に取り組んでいきましょう！

大阪府の取組み（2019年度）

シンポジウムの開催（6、10月）
海洋プラ問題の現状や最新の取組み情報を紹介しました。



マイクロプラスチック実態調査（9、12月）
大阪湾の南北2地点で実態調査を行いました。



大阪湾の魅力スポットを巡りながら、海洋プラ問題について学ぶため、エコバスツアーを開催しました（8、11月）



マイボトルの普及に向け、象印マホービン(株)と事業連携協定を締結（6月）



象印マホービン(株) マスコットキャラクターぞうさん
大阪府マスコットキャラクター もずやん

おおさかプラスチック対策推進ネットワーク会議

（8、12月）

行政、NPO、事業者など各主体のプラスチックごみ対策の現状や課題について意見交換を行いました。



市町村のイベントなどで、海ごみについて学ぶすぐろく体験やエコバッグづくり体験ブースを出展しました。



第3章 わたしたちにできること

これまで見てきたように、世界や日本でさまざまな取組みが行われていますが、海に流れ出るプラスチックごみをこれ以上増やさないためには、「使い捨てのプラスチックの使用をできるだけ減らす」「プラスチックごみはきちんと捨てる」など、わたしたち一人一人が意識して積極的に取り組むことが大切です。今、自分にできることを考えてみましょう。

今の暮らしを振り返ってみよう

みなさんは、どのくらいの量の使い捨てプラスチックを使用しているでしょうか？

年間どのくらいの使い捨てプラスチック製品を使用？

わたしたちがよく使う「使い捨てプラスチック製品」には、どんなものがあるでしょうか？

買い物のレジ袋や、ペットボトル、ほかに、加工・冷凍食品などの包装、お弁当の容器、ストロー・カップ、洗剤などの容器などもあります。プラスチックをどのくらい使うかは、ライフスタイルによっても大きく変わります。



1人当たり年間平均使用量
レジ袋 約300枚
ペットボトル 約190本

コラム 自分で計算してみよう

自分が年間でどのくらいのプラスチックごみを出しているか、診断ツールで簡単に知ることができます。(参考：NGO グリーンピースのプラスチック・フットプリント HP)

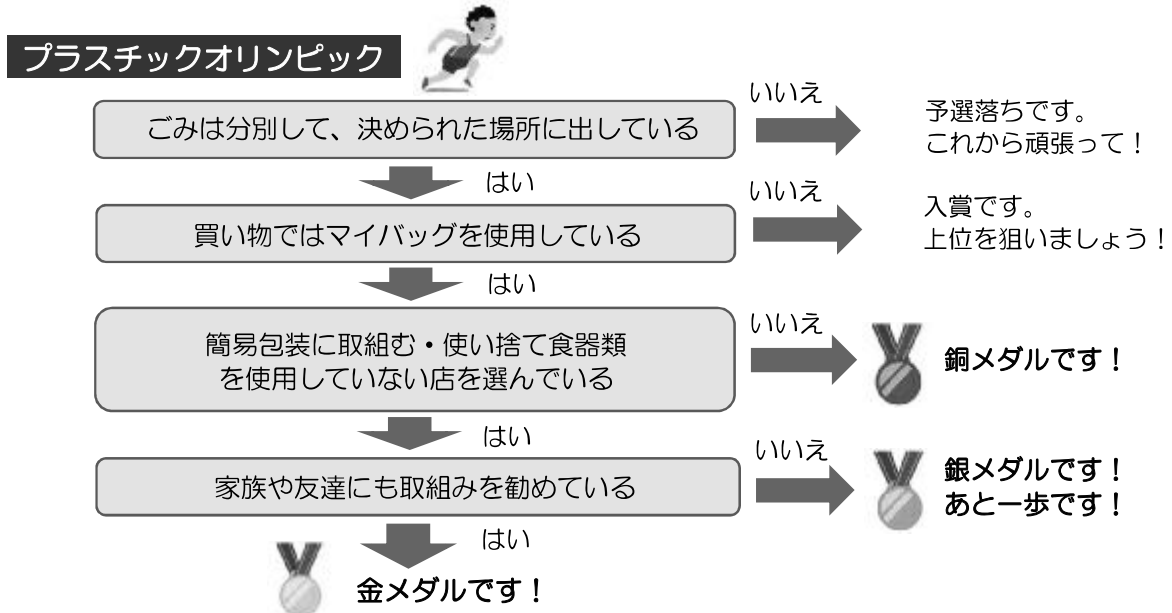
【診断項目】

- ① 週に何本ペットボトルを買いますか？
- ② 週に何回、持ち帰りカップでコーヒーなどのドリンクを買いますか？
- ③ 1週間で、ビニール袋に入った野菜や果物をいくつ買いましたか？
- ④ 外食で、使い捨てストローを週に何本使いましたか？
- ⑤ 月に何個の食器用、洗濯用洗剤ボトルを買いますか？
- ⑥ プラスチック製の綿棒を週に何本使いますか？
- ⑦ 1週間で、新しいレジ袋を何枚使いますか？

プラスチックごみを減らすためのアクション

みなさんは、「3R (スリー・アール)」について聞いたことはありますか？ 3R とは、「リデュース (Reduce)」「リユース (Reuse)」「リサイクル (Recycle)」のことです。これらは、プラスチックごみをできるだけ「減らす」、そして資源として有効に利用する取組みなので、このことを意識することにより、海洋プラスチックごみの削減にもつながります。

プラスチックごみを減らす取組みは幅広く、レベルもさまざまです。今年開催される東京 2020 オリンピックにちなんで、もし、プラスチックごみを減らす取組みを競うオリンピックが開催されたなら、みなさんは金メダルが取れるでしょうか。下の質問に答えてみましょう。



金メダルに届かなかったあなたも、ちょっとした意識と行動で金メダルを十分に狙えます。おすすめのアクションをみて、できる行動から取組み、みんなで金メダルを目指しましょう！

おすすめのアクション



場面	アクション	手軽度
お買い物 お出かけ	レジ袋をもらわないよう、マイバッグを持参する	★★★★
	詰め替え製品を使う	★★★★
	マイボトルを持ち歩く	★★
	簡易包装に取組む、使い捨て食器類を使用していない店を選ぶ	★
ごみ捨て	家庭ごみの分別ルール・回収場所・時間を守る	★★★★
	地域の清掃活動に参加する	★★
家族団らん	プラスチックごみをへらすためにできることを話し合う	★★★★



実践者の声

マイバッグ・マイボトルを使おう！


＜実践者の声＞

-  小さく折りたためるエコバッグを日頃から持ち歩いています！
-  百円均一ショップでもおしゃれで丈夫なものが手に入ります。好きなデザインだと使っていて楽しいです。



詰め替え製品を使おう！

＜実践者の声＞

-  詰め替えになっている製品はたくさんあります！探してみるのも楽しいですよ。
- 台所用品（調味料、食器用洗剤）
- 化粧品（洗顔、綿棒）
- 文具（ボールペン、プリンターのインク）



プラスチックとわたしたちのみらい

一人一人が取り組むことで、これからの私たちの生活はどう変わっていくのでしょうか？
プラスチックの良いところを活用しながら環境にも配慮できる未来を想像してみましょう！



生物にやさしい大阪湾

水域・沿岸環境の保全



プラスチックを賢く使う社会

マイボトル、マイバッグ
を持ち歩き、使い捨てプラスチックを
できるだけ使用しない暮らし



漁業にやさしい大阪湾

網にかかるごみの削減



使用したプラスチックごみは、
100%有効利用されている社会



再生プラスチック製品

環境を大切に・資源を大切に

ひとりひとりの意識向上

レジャーの宝庫大阪湾

海遊びがより快適に！



環境に優しい 製品の普及

再生・代替プラスチックを使った
製品、簡易包装製品をお店で購入



ごみは適正処理
ポイ捨てゼロの街
大阪

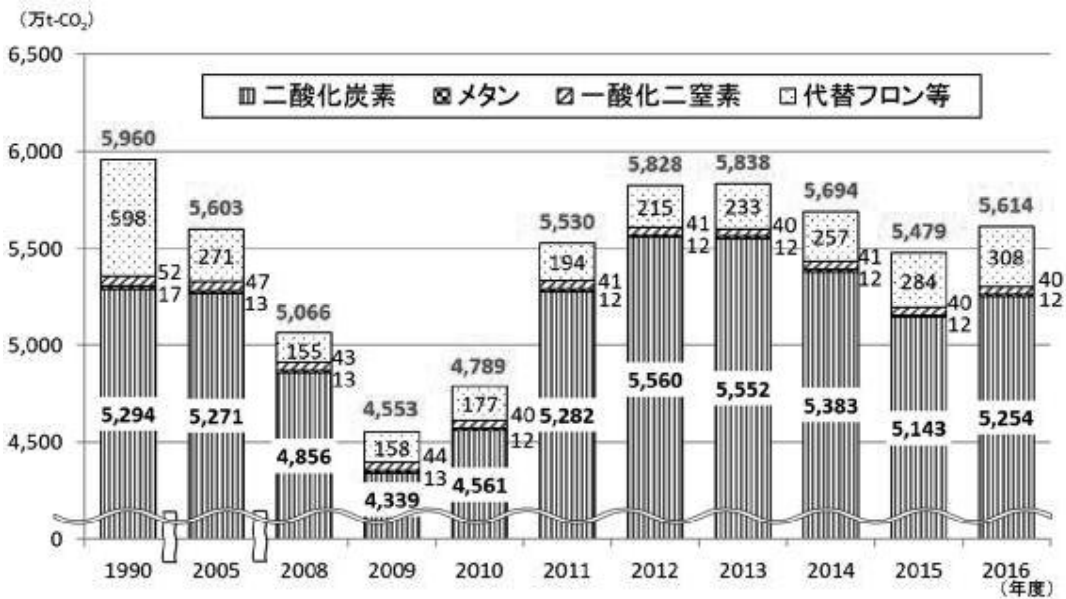


一人一人がこの問題を意識して、「マイバッグやマイボトルを持つこと」「きちんと分別すること」「ポイ捨てしないこと」などちょっとした取り組みを積み重ねることが、わたしたちの“みらい”の環境に大きく影響します。素晴らしい環境を次世代に残すためにも、できることから取り組んでみませんか？

序章 おおさかの環境の状況

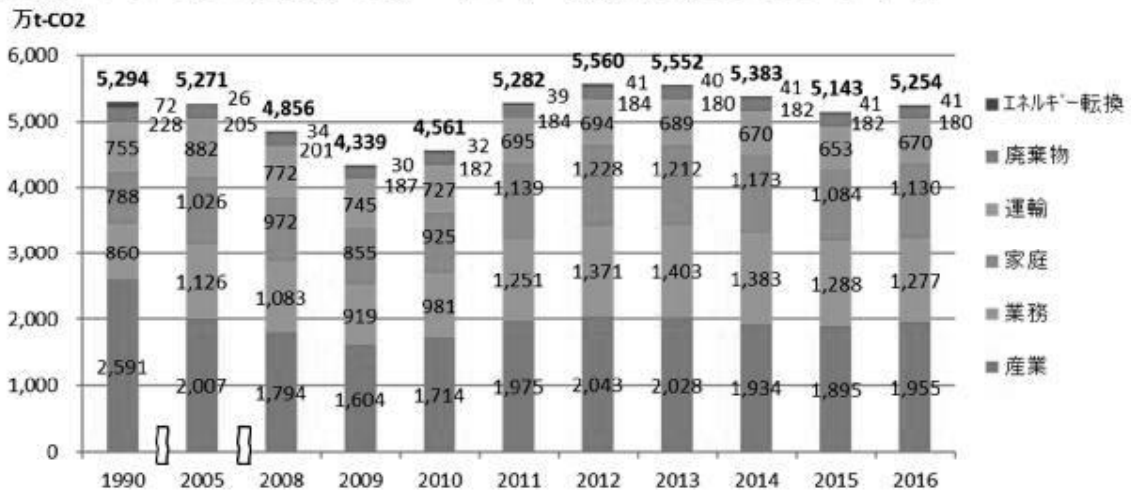
1 低炭素・省エネルギー

○ 温室効果ガスの排出量については、2016年度は5,614万トンであり、基準年度（2005年度）の5,603万トンと比べ0.2%増加しています。また、2015年度と比べても2.5%増加しています。その主な要因は、産業部門や家庭部門におけるエネルギー起源の二酸化炭素排出量の増加や、代替フロン等の排出量の増加が挙げられます。



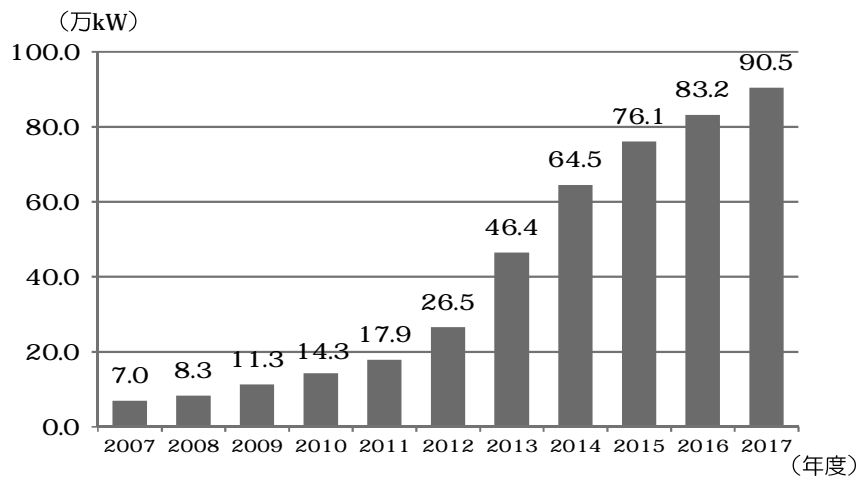
府内における温室効果ガス排出量の推移

○ 二酸化炭素の排出量については、2016年度は5,254万トンであり、基準年度（2005年度）の5,271万トンと比べ、0.3%減少しています。基準年度と比較すると、産業、運輸、廃棄物の各部門は減少していますが、業務、家庭、エネルギー転換の各部門は増加しています。



府内における二酸化炭素排出量の推移

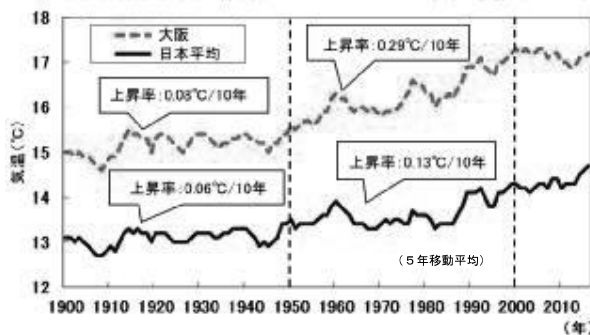
○太陽光発電設備の導入状況については、2017年度は90.5万kWであり、2016年度の83.2万kWと比較し、8.8%増加しています。



府内における太陽光発電設備の導入状況の推移

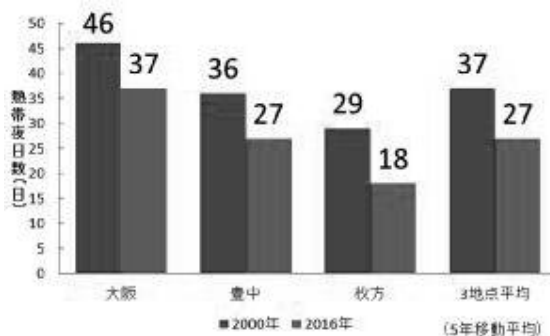
○年平均気温は、日本平均を上回る変化率で長期的に上昇しています。地球温暖化の影響を除外した大阪・豊中・枚方の3地点平均の熱帯夜数は、おおさかヒートアイランド対策推進計画で基準年としている2000年と比べ、2016年では10日減少しています。真夏日数については、近年70~80日の範囲で推移しています。

※日本平均（年平均気温）：都市化によるヒートアイランド現象の影響が少ない全国15都市の年平均気温の平均値であり、この気温上昇分は地球温暖化による影響と考えられる。



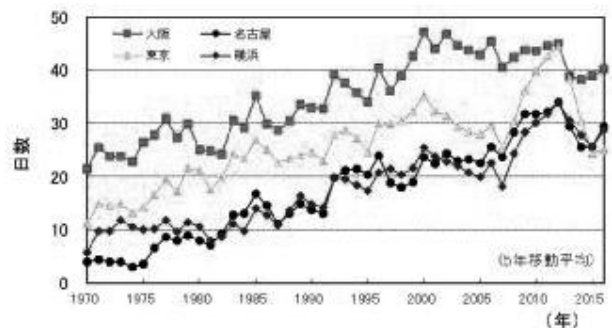
※1898年から2018年の気象庁データを用いて作成

年平均気温の推移



※1998年から2002年、及び2014年から2018年の気象庁データを用いて作成

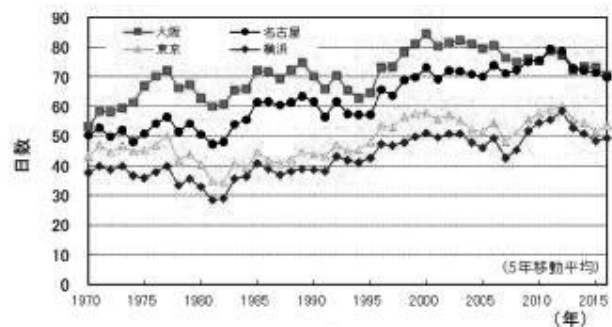
地球温暖化による影響を除いた熱帯夜日数の比較



※1968年から2018年の気象庁データより作成

※直近4年の値は、2014、2015年の冷夏の影響を受けていると考えられる

大都市における熱帯夜数の推移

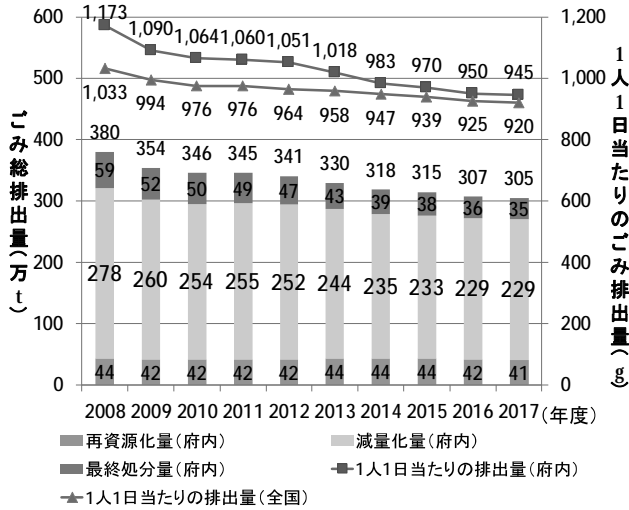


※1968年から2018年の気象庁データを用いて作成

大都市における真夏日数の推移

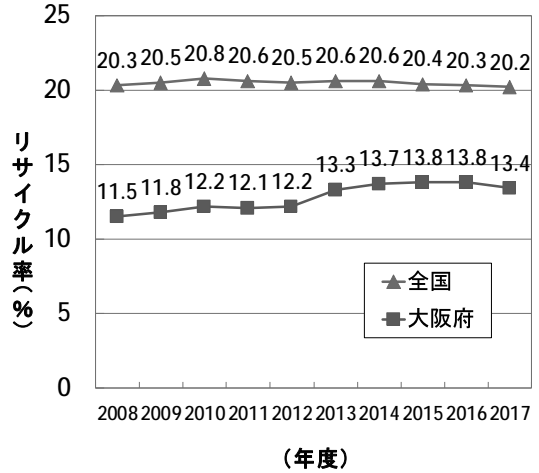
2 循環型社会

- 一般廃棄物について、2017年度の1人1日当たりのごみ排出量は945g/人・日で近年減少傾向にあり、リサイクル率は13.4%となっています。



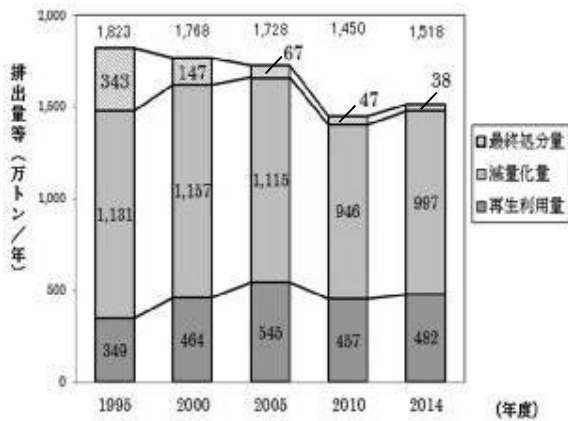
一般廃棄物排出量の推移

注) 1人1日当たりの排出量は外国人を含む人口を元に算出
四捨五入しているため、合計が合わない場合がある。



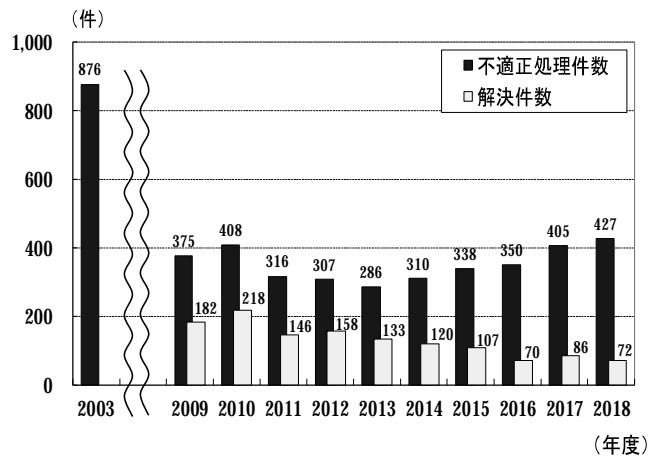
一般廃棄物のリサイクル率の推移

- 産業廃棄物について、2014年度の最終処分量は38万トンであり、2010年度と比べ19.3%減少しています。また、不法投棄等の不適正処理の件数は2003年度のピーク時から半減し近年はほぼ横ばいで推移しています。



産業廃棄物の最終処分量等の推移

注) 四捨五入しているため、合計が合わない場合がある。



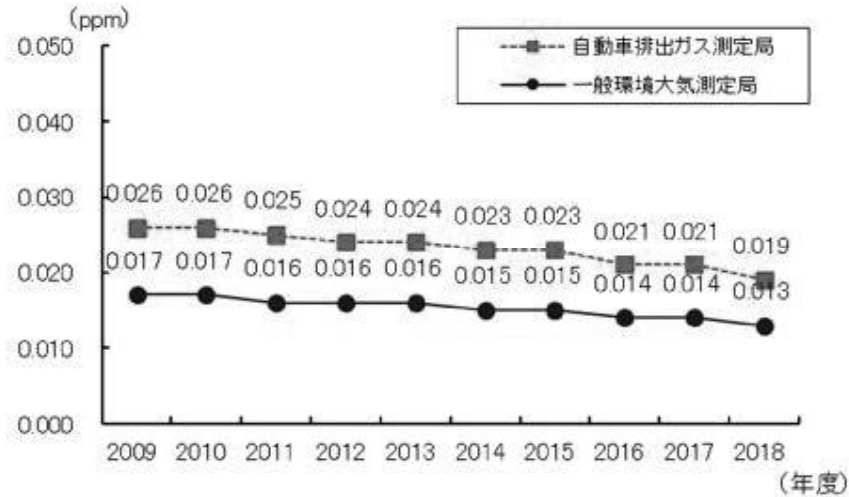
産業廃棄物の不適正処理件数

3 大気環境

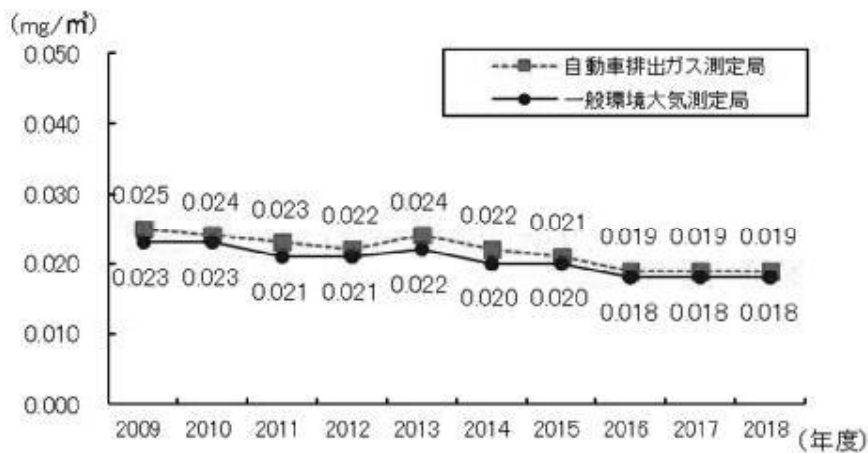
○ 一般環境大気測定局 70 局、自動車排出ガス測定局 35 局で大気環境調査を行いました。



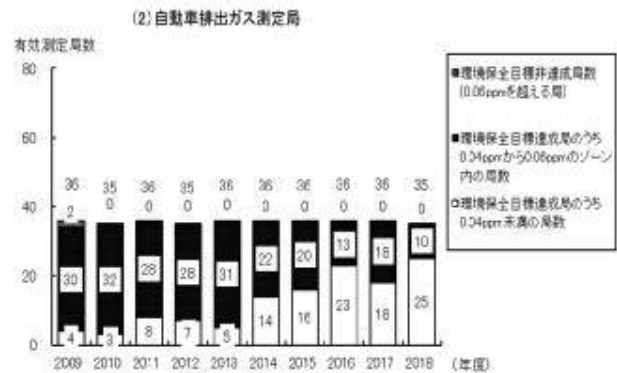
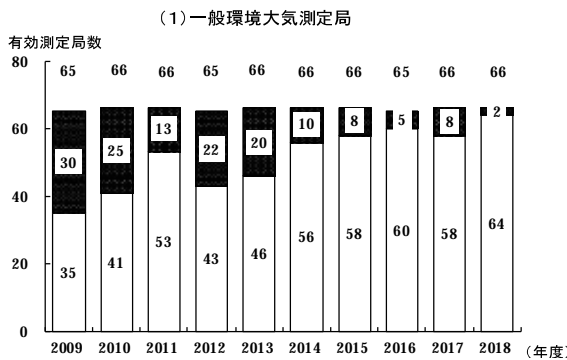
○ 二酸化窒素と浮遊粒子状物質の濃度については、長期的に改善傾向で推移しています。2018年度は、二酸化窒素は101局全局で、浮遊粒子状物質は100局全局で、それぞれ環境保全目標を達成しました。



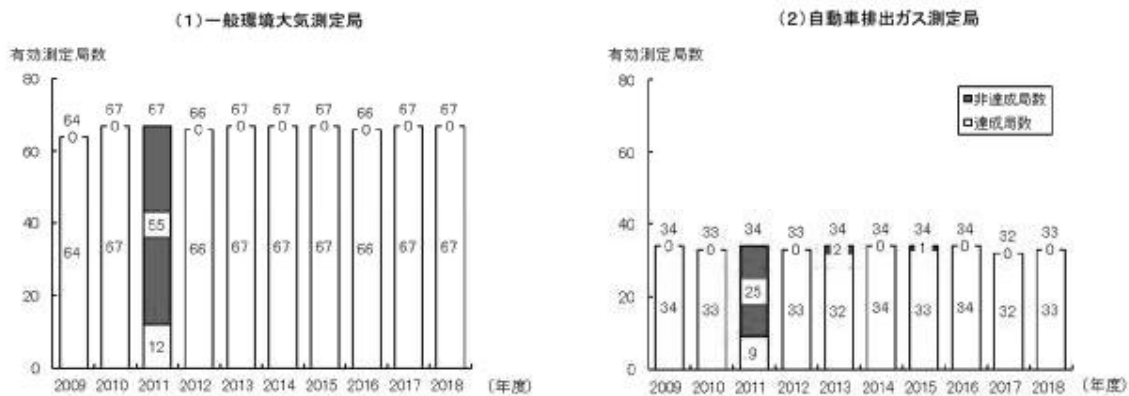
二酸化窒素濃度（年平均値）の推移



浮遊粒子状物質濃度（年平均値）の推移



二酸化窒素の環境保全目標達成局数の推移



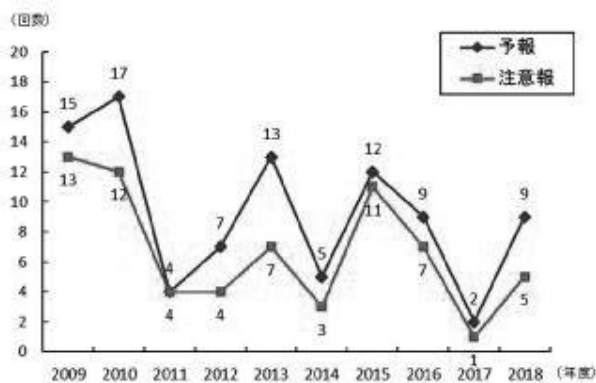
浮遊粒子状物質の環境保全目標達成局数の推移

○ 光化学オキシダントについては、2018年度は、全局で環境保全目標を達成しませんでした。光化学オキシダントの原因物質である非メタン炭化水素の年平均濃度については、緩やかな改善傾向で推移しています。

2018年度の光化学スモッグ注意報の発令回数は5回で、年度によって気象条件による変動が大きく、発令回数の増減を繰り返しています。

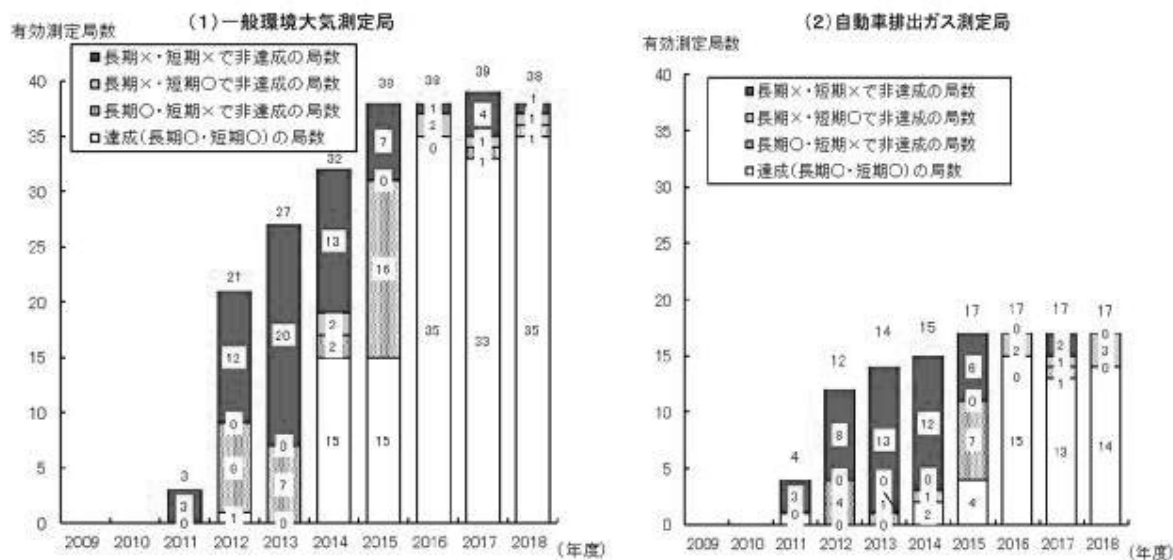


非メタン炭化水素濃度の推移
(午前6時から午前9時の年平均値)



光化学スモッグ発令回数の推移

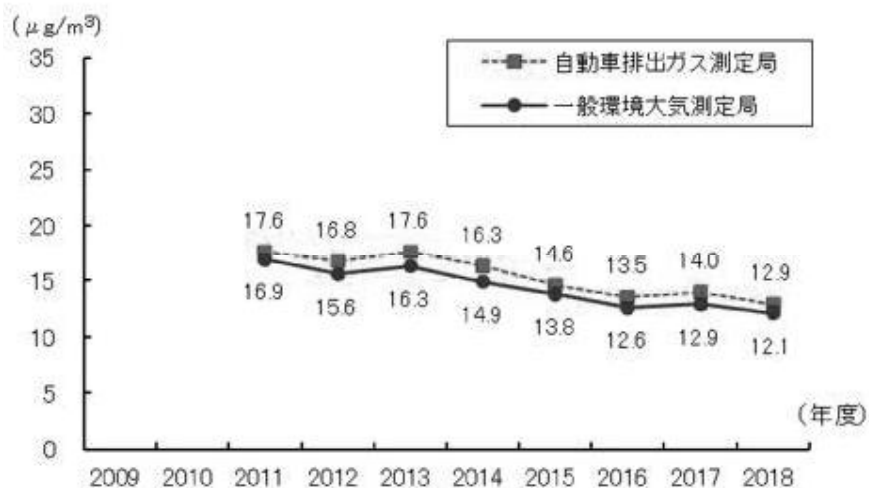
微小粒子状物質（PM_{2.5}）については、2018年度は55局中49局で環境保全目標を達成しました。年平均濃度については、2018年度は前年度に比べてやや低下し、2011年度以降緩やかな改善傾向を示しています。



注1 凡例の「長期」は長期基準、「短期」は短期基準、「○」は達成、「×」は非達成をいう。

注2 環境保全目標は長期基準と短期基準ともに達成（長期○・短期○）することが必要。

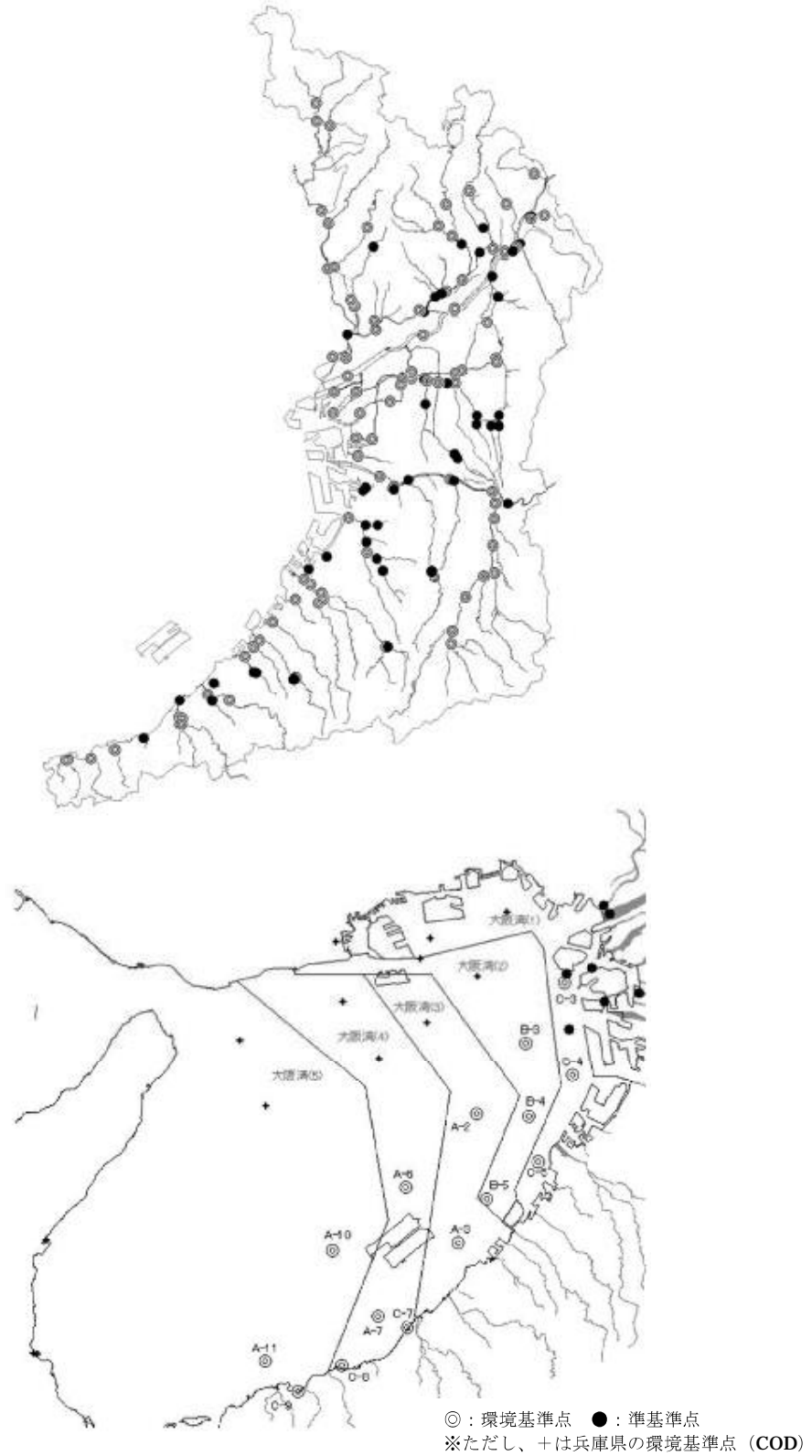
PM_{2.5} の環境保全目標達成状況



PM_{2.5} 濃度（年平均値）の推移

4 水環境

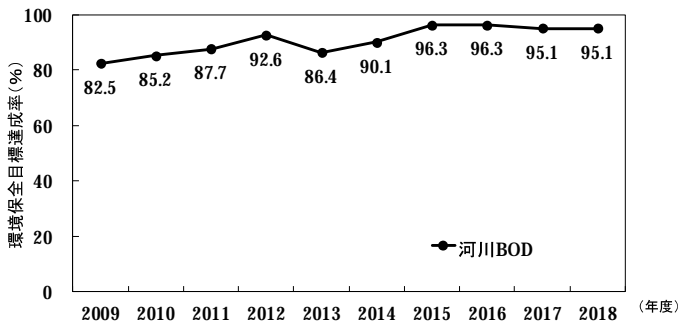
○ 河川については 100 河川 139 地点、海域については 22 地点で水質調査を行いました。



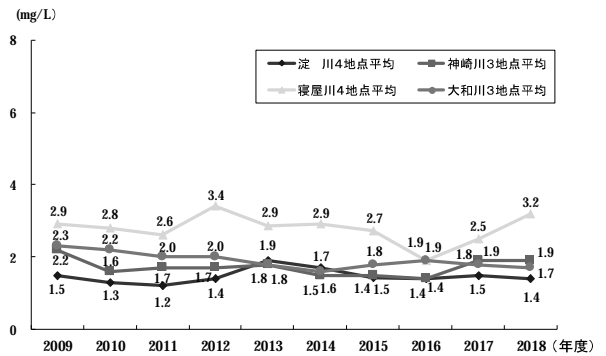
河川及び海域の常時監視地点図

- 河川の水質は概ね改善傾向にあり、2018年度における生物化学的酸素要求量（BOD）の環境保全目標達成率は95.1%でした。海域の水質については緩やかな改善または横ばいの傾向であり、化学的酸素要求量（COD）の環境保全目標達成率は、66.7%でした。

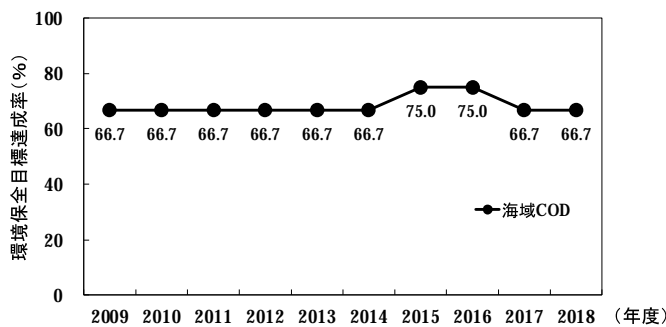
※兵庫県の測定地点を含め水域ごとに評価



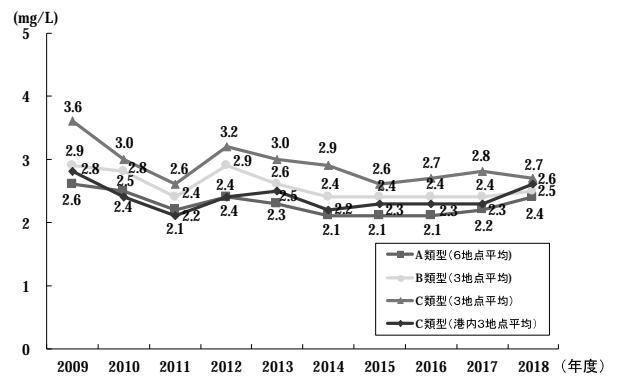
河川の BOD の環境保全目標達成率の推移



府内主要河川の BOD（年平均値）の推移



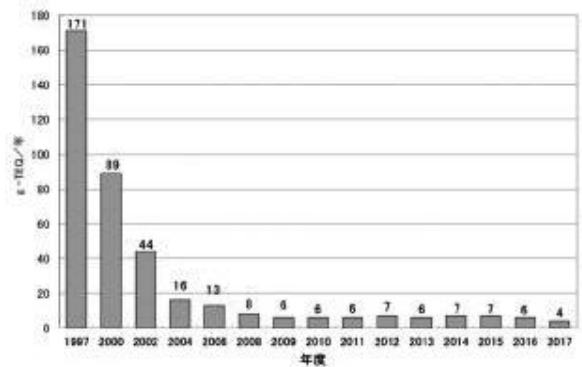
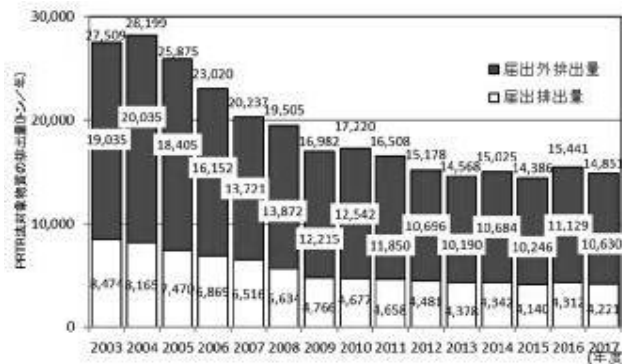
海域の COD の環境保全目標達成率の推移



大阪湾の COD（大阪府測定点・全層年平均値）の推移

5 化学物質

- 環境中への化学物質の排出量は概ね減少傾向にあり、ダイオキシン類の排出量は、大きく減少した後、近年は横ばいで推移しています。



府内における化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法) 対象物質の排出量の推移

(※2010年度から届出対象物質数が354から462に変更されました)

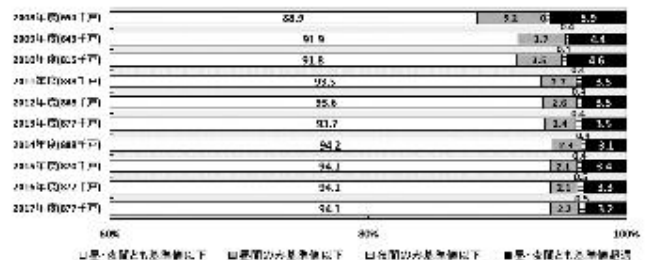
府内でのダイオキシン類の排出量の推移

6 騒音

- 道路に面する地域における環境保全目標の達成率は緩やかな改善傾向にあり、2017年度は昼・夜間ともに目標値以下の住居等の割合は94.1%でした。



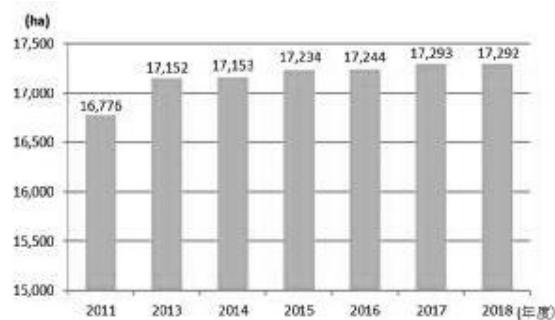
2017年度 騒音に係る環境保全目標達成状況



道路に面する地域における環境保全目標達成率の推移

7 自然環境

- 指定した保安林面積は、17,292haです。また、緑地面積は、府域の約4割を維持しています。



府域の保安林の指定面積の推移



府域の緑地面積の推移

8 立入検査等実施件数

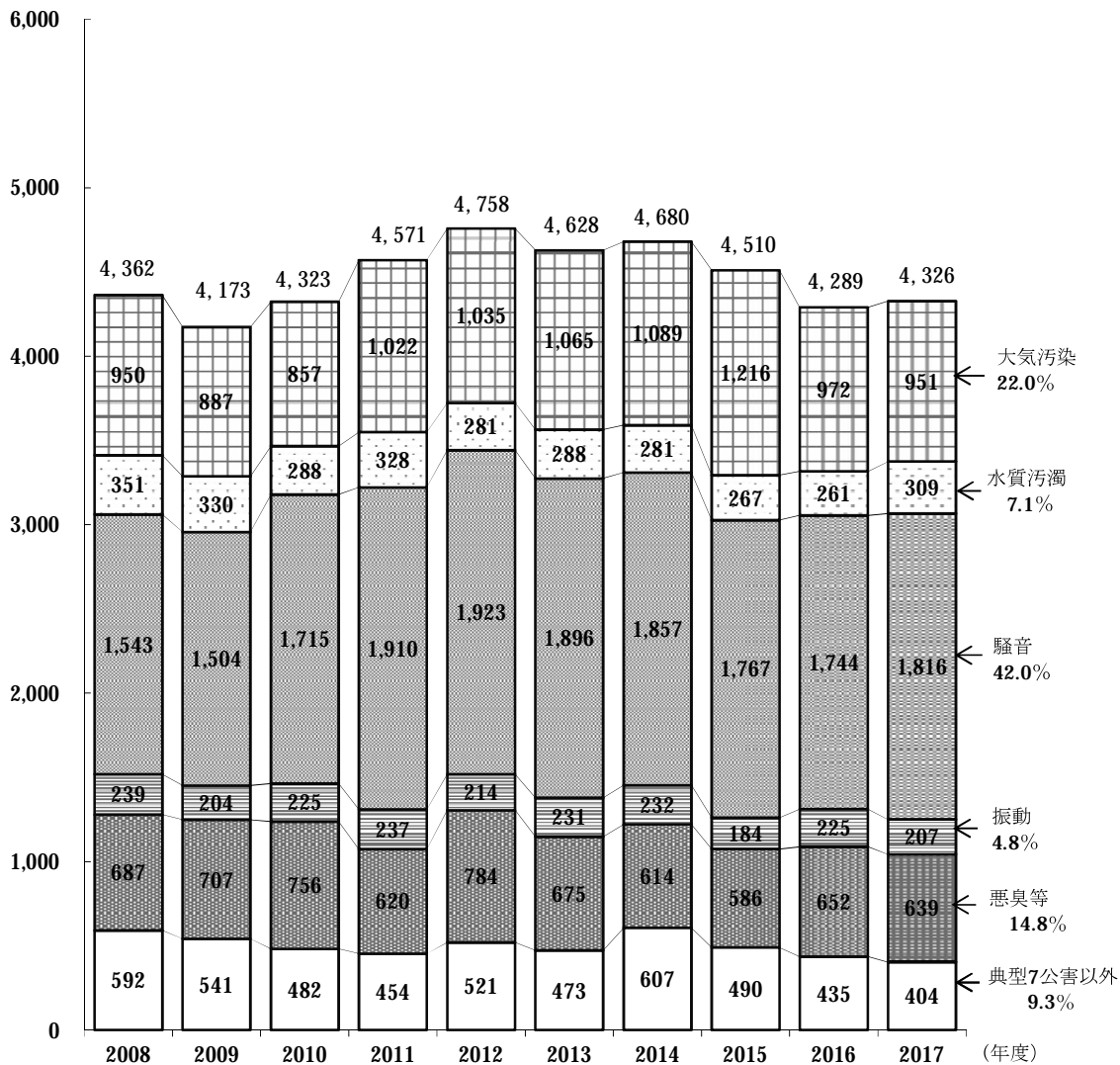
○ 2018年度に法令等に基づき府が実施した立入検査・指導等の件数は以下のとおりです。

大気		
一般大気	事業所への立入検査件数	433 件
	法・条例対象施設に係る届出件数	350 件
	サンプル採取・分析件数	15 件
アスベスト	解体現場への立入検査件数	398 件
	アスベストに係る届出件数	160 件
	サンプル採取・分析件数	58 件
水質		
	工場・事業場への立入検査件数	494 件
	法・条例対象施設に係る申請・届出件数	247 件
	サンプル採取・分析件数	229 件
騒音		
	事業場への立入件数（深夜営業規制）	6 件
交通環境		
	立入検査回数及び立入検査台数	53 回 7,056 台
土壌汚染		
	法・条例・自主調査指針に基づく調査報告件数	8 件
	土地の形質変更届出件数	45 件
化学物質		
	法・条例に基づく排出量等の届出件数	499 件
	条例に基づく管理計画及び管理目標の届出件数	125 件
廃棄物・リサイクル		
一般廃棄物	一般廃棄物処理施設への立入検査件数	24 件
	サンプル採取件数	33 件
産業廃棄物	産業廃棄物排出事業者等に対する立入検査件数	2,288 件
	産業廃棄物排出事業者からの報告徴収件数	14,610 件
	産業廃棄物処理業者等に対する立入検査件数	733 件
	自動車リサイクル法に基づく立入検査件数	81 件
	サンプル採取・分析件数	134 件
	フロン排出抑制法に基づく登録業者への立入検査件数	27 件
	フロン排出抑制法に基づく機器管理者への立入検査件数	95 件

9 その他

○ 2017年度に受け付けた苦情件数については、2016年度に比べて約0.9%増加し、最も多い苦情は騒音に関するもので苦情全体の42.0%を占めています。

公害の種類別苦情件数の推移



(注) 苦情件数は他機関からの移送分を含む。

(公害等調整委員会調べ)

第1章 計画的な環境政策の推進

豊かな環境の保全と創造に向けて、環境基本条例に基づき各種の条例・規則等を制定し、関係法令と併せて適正に運用するとともに、「新環境総合計画」に示した施策の方向等に基づき各種の施策を総合的かつ計画的に推進しました。

1 環境基本条例等の施行

■環境基本条例（1994年3月）

「人のこころがかよいあう豊かな環境の保全と創造」をめざして、生活環境、自然環境、都市環境、地球環境に係る施策を総合的かつ計画的に推進しました。

■循環型社会形成推進条例（2003年3月）

再生品の普及促進や廃棄物の適正処理の徹底など循環型社会の形成に向けた施策を推進しました。

■温暖化の防止等に関する条例（2005年10月）

事業活動における温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制や建築物の省エネルギー等の環境配慮など、地球温暖化防止及びヒートアイランド現象の緩和に向けた施策を推進しました。

電力ピーク対策の促進（エネルギー多量消費事業者における対策計画書制度に電気の需要の平準化の観点を追加等）、エネルギーの使用の抑制等に関する情報交換の促進（一般電気事業者等による報告制度等）、高効率で環境負荷の少ない火力発電設備の設置に関する条項を追加しました。（2013年4月施行）

また、一定の建築物を新築・増改築する場合の省エネルギー基準の適合義務化対象や建築物環境性能表示義務化対象を拡大しました。（2018年4月施行）

■生活環境の保全等に関する条例（1994年3月）

府民の健康の保護と生活環境の保全を図るため、公害防止に関する規制や生活環境の保全に関する施策を推進しました。

また、土壌汚染対策法が改正されたことを踏まえ、土壌汚染状況調査の実施対象となる土地の拡大等の改正を行いました。（2019年10月から全面施行）

■水質汚濁防止法第3条第3項の規定による排水基準を定める条例（1974年3月）

府民の健康を保護し、又は生活環境を保全することを目的として、水質汚濁防止法の排水基準より厳しい排水基準を定めています。

■自然環境保全条例（1973年3月）

「大阪府自然環境保全地域」等の府内に残された貴重な自然環境の保全に努め、自然環境の回復及び活用、緑の創出並びに生物多様性の確保に向けた取組みを推進しました。2005年10月には、ヒートアイランド現象の緩和を図るため、建築物の敷地等における緑化の促進を目的とした改正を行いました（2006年4月施行）。また、府民の目に触れるみどりのみちなみを創出し、緑視効果の高い景観形成を図ることを目的とした改正を行いました。（2016年10月施行）

■環境影響評価条例（1998年3月）

規模が大きく、環境影響の程度が著しいものとなるおそれのある事業について、環境保全への適正な配慮がなされるよう、事業者が作成した環境影響評価方法書の審査、事後調査報告書等の縦覧を行いました。

■景観条例（1998年10月）

景観法を活用し、大阪府の景観を特徴づける軸となる13箇所の景観計画区域内において、建築行為等を対象とした届出制度に基づく指導等を行いました。

■文化財保護条例（1969年3月）

条例に基づき指定された史跡、名勝、天然記念物を保護するため、整備、保存修理、保護増殖等への助成や、開発地における文化財を保護するため開発関係者に対して指導を行いました。

■放置自動車の適正な処理に関する条例（2004年3月）

府民の安全で快適な生活環境の保全及び地域の美観の維持を図るため、府所有地・管理地内の放置自動車の適正かつ迅速な処理を行いました。

2 新環境総合計画の推進

2011年3月に策定した「新環境総合計画」に基づき、「府民がつくる、暮らしやすい環境・エネルギー先進都市」の構築の実現に向け、前年度において豊かな環境の保全及び創造に関して講じようとする施策をとりまとめ、下記に示す各分野について、諸施策を推進しました。



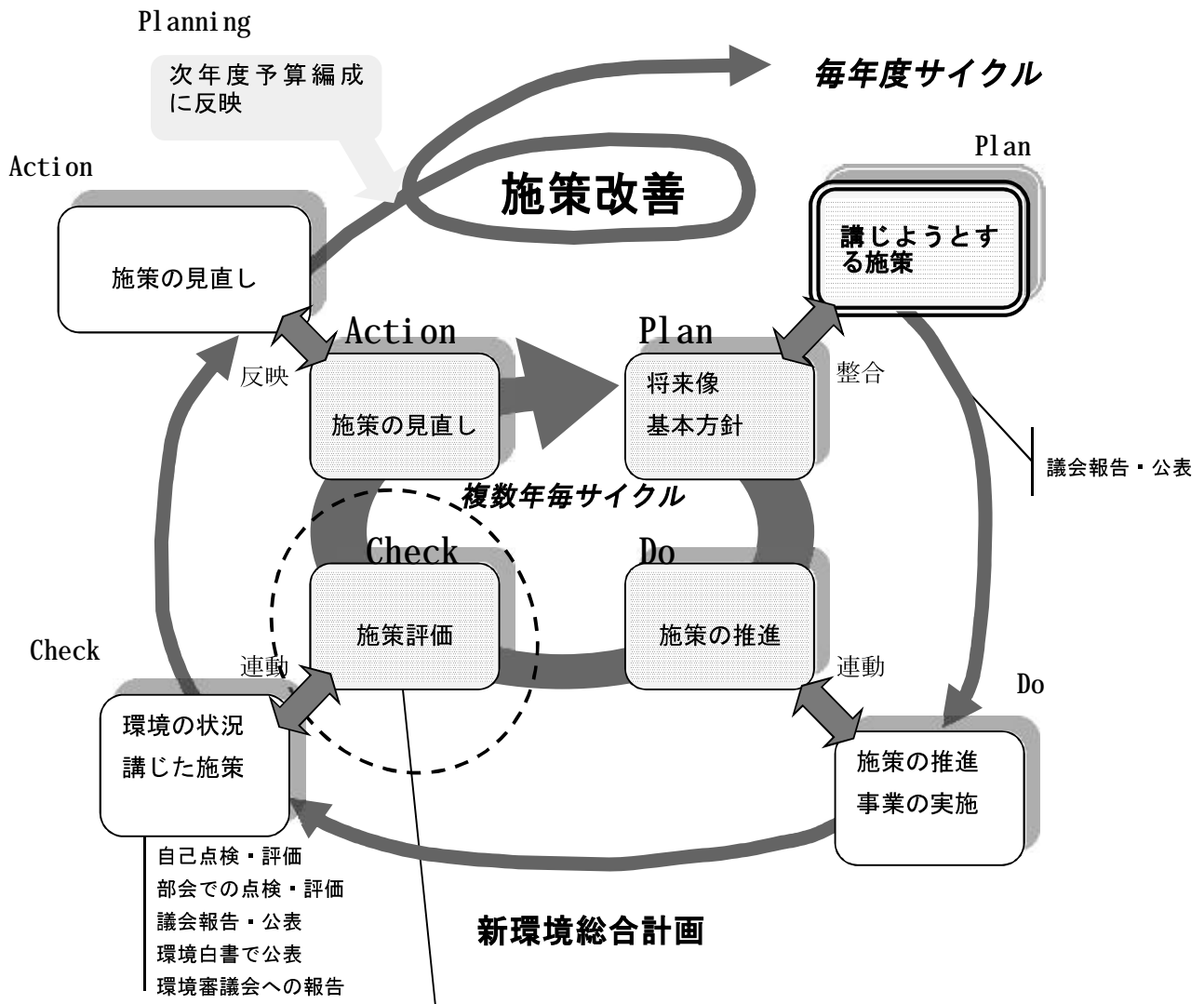
※「府民」とは、大阪府に住む人だけでなく大阪府に関わる全ての人を指します。

新環境総合計画に定める各分野の関連についての概念

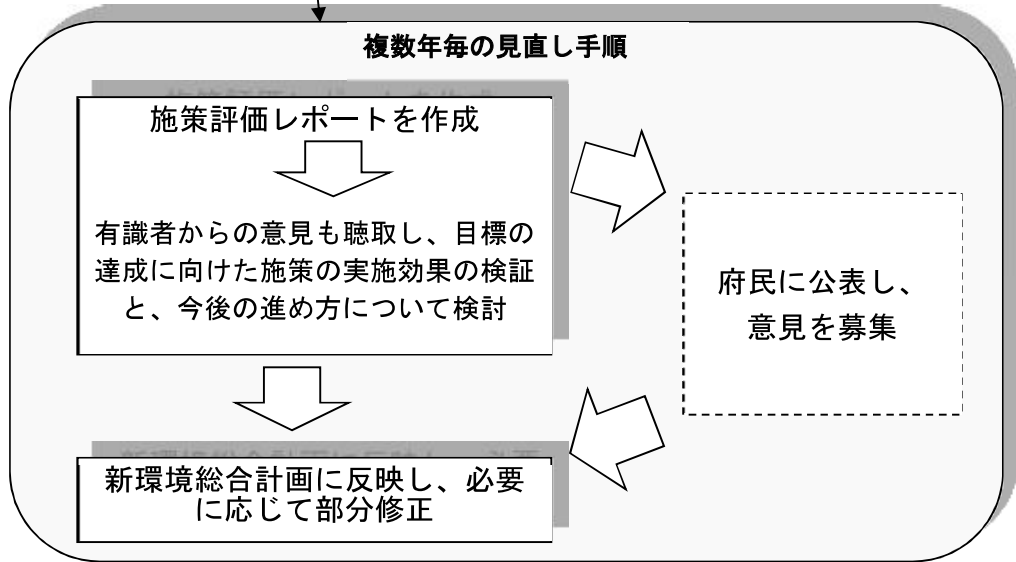
3 新環境総合計画の進行管理

新環境総合計画の進行管理として、2つのPDCA（Plan-Do-Check-Action）サイクルによる進行管理・点検評価システムを導入しています。毎年度のPDCAサイクルにより個別の施策・事業の点検・評価を行うとともに、複数年（3～4年）毎のPDCAサイクルにより計画に掲げた施策の方向や主要施策の実施効果の検証を行い、急速な社会経済情勢の変化に柔軟に対応するとともに、施策のより効率的、効果的な実施を図ることとしています。

	毎年度のサイクル	複数年毎のサイクル
Plan	環境基本条例に掲げられた基本理念や、新環境総合計画で掲げられた中長期的な目標などを施策等の方針とし、毎年度の施策実施プログラムとして環境基本条例第9条第2項により、講じようとする施策を府議会に報告するとともに公表。	新環境総合計画の策定
Do	環境基本条例第6条の施策の基本方針及び環境総合計画の施策の展開方向を踏まえながら、様々な施策や事業を実施・運用。	新環境総合計画の推進
Check	環境基本条例第9条第1項により、毎年度、環境の状況と豊かな環境の保全及び創造に関して講じた施策を作成し、府環境審議会環境総合計画部会で点検・評価。府議会に報告するとともに公表。	新環境総合計画に定められた2020年度の目標（アウトカム）毎に、関連する施策・事業を対象に作成した施策評価レポート及び工程表を府環境審議会環境総合計画部会において点検・評価。
Action	点検・評価結果等をもとに、施策・事業の内容や選択について見直し。	点検・評価結果をもとに、施策・事業の内容や選択について見直し。必要に応じ、計画の見直し。



新環境総合計画



新環境総合計画の進行管理に関する PDCA サイクルの概念

第2章 各分野において講じた施策

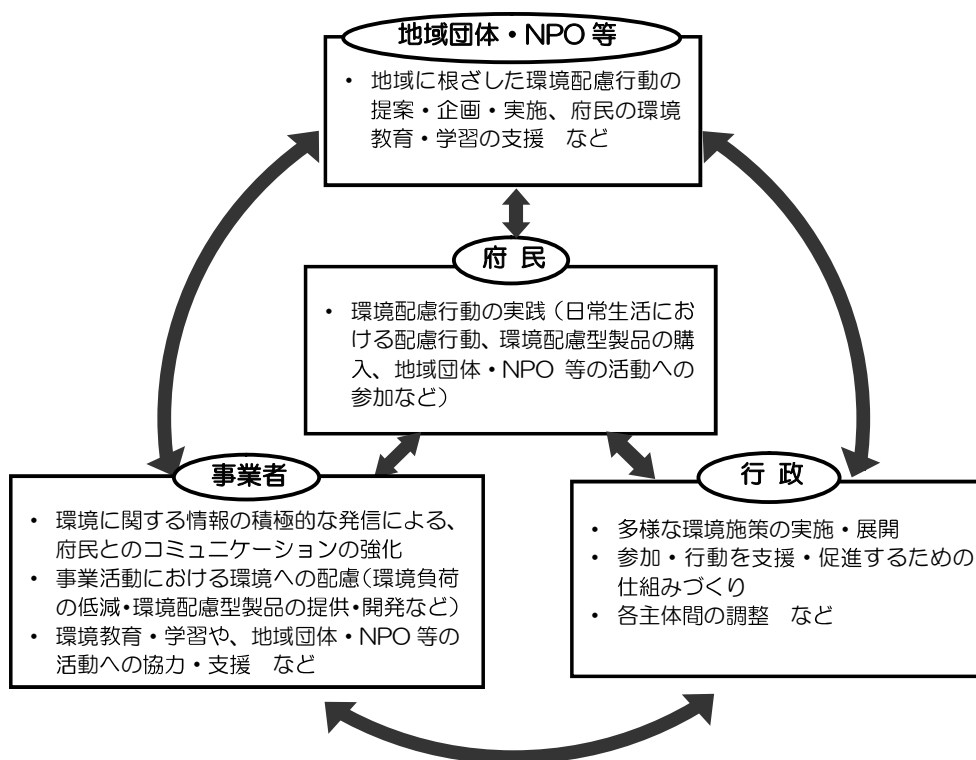
I 府民の参加・行動

～ あらゆる主体の参加・行動を促す大阪府の施策の方向～

かけがえのない地球を守り、私たちの生命を育んでいる健全で恵み豊かな環境を保全しながら将来に引き継ぐためには、社会を構成するあらゆる主体の参加と行動が必要です。

《あらゆる主体が参加・行動する社会のイメージ》

- ・ 府民、地域団体・NPO、事業者、行政等の各主体が積極的に参加し、自ら行動する社会
- ・ 各主体が相互に連携して行動することにより、相乗的な効果が発揮されている社会



●施策の方向

あらゆる主体が日常的に環境配慮行動に取り組む社会の実現を目指し、環境問題への気付きと環境配慮行動の拡大に向けた取組みを進めます。

- 効果的な情報発信
- 環境教育・学習の推進
- 行動を支援する仕組みの充実

2018年度の主な施策・事業と実績

効果的な情報発信

■環境情報の発信

[- 千円]

(目的)

ホームページやメールマガジンを通して、環境農林水産イベントや環境モニタリング情報等を発信し、府民・事業者・地域団体・NPO等の環境保全活動を促進すること。

(内容)

大阪の環境に関する情報のポータルサイトとして、「おおさかの環境ホームページ エコギャラリー」を開設しています。また、環境等イベント情報をお知らせするため、「大阪府環境農林水産イベント情報配信サービス」を配信しました。

最近の大阪の環境に関するイベント情報、水質・大気等の環境モニタリング結果、環境審議会の審議内容、環境白書、条例・計画の情報等、幅広い環境情報について、ホームページ上に速やかに公表するなど積極的に発信することで、府民・事業者・地域団体・NPO等の環境保全活動の促進を図りました。

<2018年度の実績>

- ・メールマガジン「大阪府環境農林水産イベント情報配信サービス」配信件数 12件

【参考】

- ・エコギャラリー年間アクセス件数（主なページ） 12万件

【環境農林水産総務課 06-6210-9543】

【エネルギー政策課 06-6210-9549】



おおさかの環境ホームページ
エコギャラリーのトップページイメージ

環境教育・学習の推進

■環境教育等の推進

[- 千円]

(目的)

府民・事業者等のあらゆる主体が、様々な環境問題を理解し、環境配慮に対する意識の向上を図ること。

(内容)

学校、企業等への各種出前講座や各種施設見学会等を実施するなど、「環境教育等行動計画」に基づき、環境学習と環境保全活動を推進しました。



小学校での環境教育

<2018年度の実績>

- ・府庁で取り組む環境教育出前講座等の実施施策数：31施策

【エネルギー政策課 06-6210-9549】

行動を支援する仕組みの充実

■環境交流パートナーシップ事業

[1,242 千円]

(目的)

環境 NPO 等の活動の活発化や新たな活動の展開に向けた、交流機会の創出を図ること。

(内容)

環境 NPO、企業、学校関係者、ボランティア等の幅広い主体が参加するセミナーや人材育成講座などを盛り込んだ交流会を実施しました。また、環境 NPO 等の登録や SNS による団体活動等の情報発信を行いました。



交流セミナー開催

<2018 年度の実績>

交流セミナー、人材育成講座、環境教育研究会の3つのセミナーで構成する交流会を3回実施するとともに、登録団体等による交流会を1回実施

【エネルギー政策課 06-6210-9549】

■地域環境活動を広げる府民共同発電補助事業

[1,844 千円]

(目的)

NPO 等による、公益的施設（学校、保育所等）への共同発電の仕組みによる太陽光発電設備の設置を支援し、団体の環境活動拡大を図ること。

(内容)

府民等からの寄付を募り、学校や保育所等の公益的施設に太陽光発電設備を設置する共同発電の仕組みを活用して、その施設と連携した環境活動を実施する NPO 等に対し、設置費用の補助を行うとともに、その活動を支援しました。



障がい者作業所に設置

<2018 年度の実績>

公益的施設への太陽光パネル設置 2件

【参考】2016（平成28）年度、2017（平成29）年度補助事業団体による環境活動の実績確認 4件

【エネルギー政策課 06-6210-9549】

■笑働 O S A K A の推進

[857 千円]

(目的)

府民・企業・行政等、多様な主体の強みを活かした連携・協働により笑顔あふれる大阪を実現すること。

(内容)

公共施設の一定区間を、自治会・企業等に清掃・美化活動を行ってもらい、地域コミュニティの活性化、地域への愛着を創出しました。

<2018 年度の実績>

アドプト・プログラムへの参加団体数及び参加者について、2017 年度と同程度であった。

【実績】2018 年度

参加団体、参加見込者：636 団体、約 57,000 人



笑働 OSAKA

ロゴマーク

【事業管理室 06-6944-9269】

■クラウドファンディングを活用した環境取組の推進

[- 千円]

(目的)

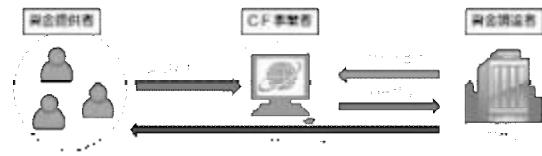
「クラウドファンディング (CF) ※」を通じてより多くの府民・NPO 等団体が環境分野の課題解決に寄与する取組に参加できる社会を目指すこと。

※ 「クラウドファンディング」

ある「志」を持った人や団体に対する資金を、ネットを通じて多数の支援者から収集しプロジェクトを実現する手法。

(内容)

環境活動や普及啓発イベントの実施に取り組む企業・NPO 等が CF による資金調達と活動 PR を行っていくことが出来るよう、CF プラットフォームを運営する事業者との環境分野でのクラウドファンディング普及に関する連携協定のもと、その活用を促進するとともに、府民が資金提供者として環境への取組に参加できるよう普及啓発を行いました。



クラウドファンディング活用スキーム

<2018 年度の実績>

相談件数：4 件

【参考】平成 31 年 1 月 23 日に FAAVO 大阪協力のもと、農業関係者を対象に「資金調達セミナー」を開催。約 20 名の参加者のうち、CF を含めた資金調達の相談を 4 件受けた。

【環境農林水産総務課 06-6210-9543】

■農業・農空間に関する活動への府民の参加促進【新規】

[267 千円]

(目的)

農業の担い手が減少する中、企業や学生等の幅広い府民参加により、農業・農空間の持つ多様な機能の発揮促進を図ること。

(内容)

府民が気軽に農空間での活動に参加できるよう、企業や学生、農空間保全団体等の多様な主体が参画する「おおさか農空間づくりプラットフォーム」を運営し、農空間の魅力や活動等に関する情報の発信、府民と地域のマッチングを支援しました。



企業 CSR による
遊休農地の利用

<2018 年度の実績>

- HP や公式 Facebook により農空間の魅力や活動等に関する情報の発信を行った。
- 農空間マッチングセッションの開催等を通じて、会員による新たな取組が生まれるなど、農空間づくりに参加する府民の増加を図ることができた。

【農政室 06-6210-9601】

[]内の数字は 2018 (平成 30) 年度決算額

II-1 低炭素・省エネルギー社会の構築

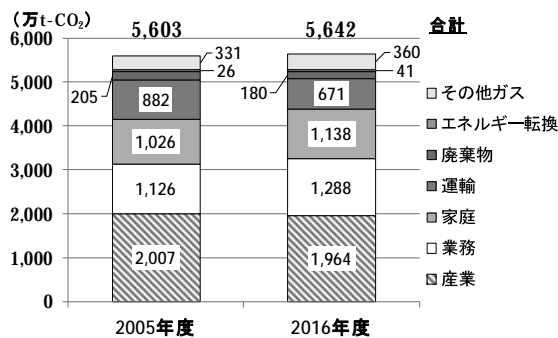
《2020年度の目標》

温室効果ガス排出量※を2005年度比で7%削減する。

※電気の排出係数は関西電力(株)の2012年度の値(0.514kg-CO₂/kWh)を用いて設定

《目標に対する現状》

■府内における2016年度の温室効果ガス排出量は5,642万トンであり、2005年度比で0.7%の増加となっています。



大阪府域における温室効果ガス排出量の推移

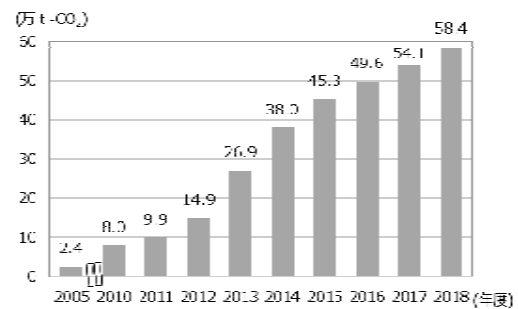
注) 2016年度の排出量は2012年度の電気の排出係数※を用いて算定。
※電気の排出係数とは、電力会社が排出する二酸化炭素排出量を販売電力量で割った値

■府内の2018年度のエコカー(注)保有台数は約136万台(約38%)であり、2009年度と比べ約118万台(約33ポイント)増加しました。

※2009年12月：大阪エコカー普及戦略策定

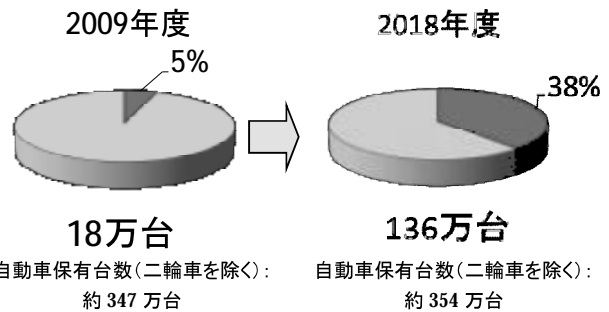
(注)エコカーとは、電気自動車、天然ガス自動車、ハイブリッド自動車、プラグインハイブリッド自動車、クリーンディーゼル乗用車、水素エンジン自動車、燃料電池自動車に加えて超低燃費車(2010年度燃費基準+25%達成車または2015年度燃費基準達成車)です。

■府内の2018年度の太陽光発電の導入によるCO₂削減量は約58.4万トンです。



太陽光発電の導入によるCO₂削減量

注)・2012年度の関西電力(株)の電気の排出係数を用いて算定
・設備利用率は調達価格等算定委員会の資料を基に設定



エコカーの普及台数

● 施策の方向

あらゆる要素に「低炭素」の観点を組み入れて、低炭素化に向けた効果的な取組みを促進し、低炭素・省エネルギー社会の構築を目指します。

- 家庭、産業・業務、運輸・交通の低炭素化に向けた取組みの推進
- 再生可能エネルギー等の普及
- 森林整備によるCO₂吸収の促進
- 気候変動の影響への適応、ヒートアイランド対策の推進

2018年度の主な施策・事業と実績

低炭素化の推進（家庭）

■省エネ行動の普及啓発事業

[509 千円]

（目的）

府民一人ひとりの省エネ行動の実践を促進すること。

（内容）

ホームページ『省エネ生活のすすめ』による省エネ行動メニュー等の情報発信に加え、省エネラベルやグリーン購入の普及活動を実施しました。

また、大阪府地球温暖化防止活動推進センターと連携し、地球温暖化防止活動推進員の活動支援や「家庭エコ診断」の普及促進に取り組むなど、広く府民に省エネ行動を働きかけました。



地球温暖化防止活動推進員
委嘱式の様子

<2018年度の実績>

地球温暖化防止活動推進員に対する研修会 4回

【エネルギー政策課 06-6210-9549】

■家庭の省エネ・エコライフスタイル推進強化事業【新規】

[4,562 千円]

（目的）

家庭部門における温室効果ガス削減に向け、各家庭の省エネ行動の取組みの裾野を広げること。

（内容）

地球温暖化防止活動推進員制度を機能強化し、市町村や民間と連携した家庭への省エネアドバイスを実施できる体制を整備し、府内各地で推進員による個別対応型省エネ相談会を展開しました。



商業施設における省エネ相談会

<2018年度の実績>

省エネ診断件数 818件

【参考】 省エネアドバイザー登録人数 32人

【エネルギー政策課 06-6210-9549】

低炭素化・温室効果ガス排出削減の推進（産業・業務）

■「大阪府温暖化の防止等に関する条例」に基づく指導

[1,411 千円]

（目的）

エネルギーを多く使用する事業者（特定事業者）の温室効果ガスの排出や人工排熱の抑制等を行うこと。

（内容）

「大阪府温暖化の防止等に関する条例」に基づき、特定事業者（約900事業者）に対し、温室効果ガスの排出や人工排熱の抑制等についての対策計画書及び実績報告書の届出を義務付けるとともに、2016年度から導入した、対策と削減状況を総合的に評価する「評価制度」を運用し、必要な指導・助言を行いました。また、他の模範となる特に優れた取組みを行った事業者を「おおさかストップ温暖化賞」として表彰しました。

〈2018年度の実績〉

- ・実績報告書の概要
2017年度の温室効果ガス排出量※は16.9万トン-CO₂（1.0%）削減（2014年度比）
※2015年度から2017年度までを計画期間とする事業者の実績
- ・対策計画書の概要
2018年度から2020年度の3年間で15.6万トン-CO₂（1.0%）削減
- ・特定事業者への立入等現地での調査件数 43件



【エネルギー政策課 06-6210-9553】

低炭素化の推進（住宅・建築物）

■建築物の環境配慮制度の推進

[1,397 千円]

（目的）

建築主等による建築物の環境配慮に関する取組みの促進を図ること。

（内容）

「大阪府温暖化の防止等に関する条例」に基づき、延べ面積2,000㎡以上の建築物（特定建築物）を新築等しようとする者（特定建築主）に対し、CO₂削減・省エネ対策等の建築物の環境配慮のための計画書の届出、再生可能エネルギー利用設備の導入検討、広告へのラベルの表示義務について、必要な指導・助言を行いました。

また、特に優れた建築物の環境配慮の取組みを行った建築主や設計者を府と大阪市で「おおさか環境にやさしい建築賞」として表彰するとともに受賞者等による講演会を開催しました。

〈2018年度からの新たな内容〉

- ・2,000㎡以上の建築物（非住宅）及び10,000㎡以上で高さ60m超の住宅の新築等をする場合に、省エネ基準に適合する義務を追加しました。
- ・全ての特定建築物について、工事現場へ表示ラベルを表示する義務を追加しました。

〈2018年度の実績〉

「おおさか環境にやさしい建築賞」の受賞建物の府民向け現地説明会の開催 1施設2回



大阪府建築物環境性能表示



平成29年度おおさか環境にやさしい建築賞大阪府知事賞建物（メディカルりんくうポート）

【建築指導室 06-6210-9725】

■ESCO 事業の推進

[481 千円]

(目的)

建築物の省エネルギー化、地球温暖化対策、光熱水費の削減を効果的に進めることができる ESCO 事業を、広汎な府有施設を対象に効果的に展開し、さらに大阪府内の市町村や民間ビルへも普及啓発・促進を図ること。

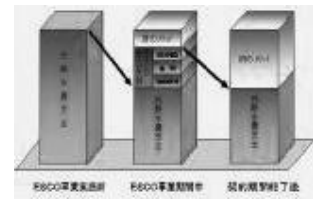
(内容)

「新・大阪府 ESCO アクションプラン（2015 年 2 月策定）」に基づき府有施設へのさらなる ESCO 事業の導入拡大を図りました。ESCO 事業の導入に際しては、複数施設の一括事業化の手法も活用し、省エネ・新エネ設備の導入を効果的に推進しました。

また「大阪府市町村 ESCO 会議」の開催を通じ府内市町村に対しても ESCO 事業の導入を広く働きかけるとともに、関係部局と連携し、各種説明会や省エネセミナー等を活用することで ESCO 事業の周知を図り、民間建築物の省エネ改修・ESCO 事業導入を啓発しました。

〈2018 年度の実績〉

- ・4 事業 12 施設（近つ飛鳥博物館、国際会議場、警察署 5 署、公園 5 園）において新規公募を実施し、事業者を決定しました。
- ・2017 年度事業者選定施設（高等学校 6 校、警察署 5 署、府営公園 3 園）において ESCO 改修工事を実施しました。
- ・7 月に「大阪府市町村 ESCO 会議」を開催しました。



ESCO 事業の実施スキーム



ESCO 事業の実施効果

【公共建築室 06-6210-9799】

低炭素化の推進（運輸・交通）

■エコカーの普及促進

[- 千円]

(目的)

2020 年度までに府内の自動車の 2 台に 1 台（約 180 万台）をエコカーにすることを目標に、エコカーの普及を推進し、温室効果ガス及び自動車排出ガスを削減すること。

(内容)

「エコカーのあふれるまち大阪」の実現に向け、「大阪エコカー協働普及サポートネット」において、民間企業、関係団体、国や市町村と協働し、エコカーの率先導入や啓発活動等の取組みを実施することにより、エコカー普及を促進しました。

〈2018 年度の実績〉

- ・エコカー展示会・試乗会 9 回（市町村との連携による開催分を含む）
 - ・ホームページやメールマガジンによる情報発信
- | | |
|-------------|---------|
| ホームページアクセス数 | 2.2 万回 |
| メールマガジン発行回数 | 9 回 |
| メールマガジン登録数 | 1,739 名 |

【参考】府内におけるエコカー保有台数
136 万台（2018 年度）



エコカー展示会

【環境管理室 06-6210-9586】

■水素関連ビジネス創出基盤形成事業

[5,227 千円]

(目的)

多様な企業集積を誇る大阪の強みを活かしつつ、様々な分野での水素需要の拡大による府内企業の活躍フィールドの創出・拡大を図るとともに、次世代のクリーンなエネルギーとして注目されている水素エネルギーの普及を図ること。

(内容)

- ・「H₂Osaka ビジョン (2015 年度策定)」に沿って、大阪の特色を活かした実証事業の実施等の水素技術の実用化に向けた取組みを推進しました。
- ・大阪の水素ショーケース機能の維持・発展のため、先進的な水素プロジェクトを展開する取組みを支援しました。
- ・燃料電池 (FC) バスの試乗会を開催し、FC バスの普及に向けた啓発を行いました。



水素の多様な活用



燃料電池バス

<2018 年度の実績>

- ・H₂Osaka ビジョンの具体化に向けた研究会等の開催 12 回
- ・FC フォークリフトに係る関係事業者への周知 8 回
- ・FC バス試乗会の実施に向けた関係者会議の開催 8 回

【産業創造課 06-6210-9295】

再生可能エネルギー等の普及

■おおさかスマートエネルギーセンターの運営

[3,548 千円]

(目的)

「再生可能エネルギーの普及拡大」や「エネルギー消費の抑制」などに取り組み、エネルギーの地産地消による新たなエネルギー社会の構築を目指すこと。

(内容)

大阪のエネルギー政策の推進拠点である「おおさかスマートエネルギーセンター」において、府民、事業者等からの問合せ・相談にワンストップで対応するとともに、様々な事業を実施しました。

<2018 年度の実績>

- ・府有施設の屋根貸し事業や省エネ診断などによる総マッチング件数：75 件
- ・省エネセミナーの開催・講演：主催 3 回、講演 36 回

【エネルギー政策課 06-6210-9254】

森林整備によるCO₂吸収の推進

■ アドプトフォレスト制度による企業の森づくり

[- 千円]

(目的)

企業やNPO法人等の参画により、放置された人工林や竹林等荒廃した森林を整備することで、地球温暖化防止や生物多様性の保全等に資すること。

(内容)

大阪府が、事業者等の要望を聞きながら、活動地や活動内容等の提案を行い、活動地となる市町村や大阪府、事業者等の中で、活動内容や役割分担等を含む協定を結びました。その上で、事業者等は対象地域で間伐や植樹、下草刈りなどの森づくり活動を行いました。

府は、協定を結ぶ際の調印式の実施や、長期の活動を実施する事業者への感謝状贈呈式等により、事業者等の新規参画や意欲向上を図りました。

<2018年度の実績>

新規参加事業者 2 社、活動地追加 0 社、協定更新事業者 1 社



企業による森づくり活動の様子

【みどり推進室 06-6210-9556】

地球温暖化に対する適応策

■ 温暖化「適応」推進事業

[4,360 千円]

(目的)

気候変動の身近な影響への「適応」について、府民・環境NPO等の理解を深めること。

(内容)

環境NPO、市町村等を対象に、「適応」の理解を深め、啓発手法を学ぶ学習会を開催するとともに、環境NPOと協働して府民向けの各種啓発活動を実施しました。また、事業者を対象に気候変動による事業活動への影響と適応に関するセミナーを開催しました。

<2018年度の実績>

- ・ ヒートアイランド現象の啓発イベント (1 回)
- ・ 環境NPOや市町村職員等対象学習会 (4 回)
- ・ 府民対象啓発イベント (4 回)
- ・ 中小事業者対象セミナー (1 回)



事業者向けセミナーの様子

【エネルギー政策課 06-6210-9553】

ヒートアイランド対策の推進

※ 「ヒートアイランド対策の推進」については、「[「魅力と活力ある快適な地域づくりの推進 暮らしやすい快適な都市環境の確保（ヒートアイランド現象の緩和）」](#)参照

[]内の数字は2018(平成30)年度決算額

Ⅱ－２ 資源循環型社会の構築

《2020年度の目標》

資源の循環をさらに促進する。

- ・【一般廃棄物】リサイクル等の推進により、最終処分量を32万トン以下とする。
- ・【産業廃棄物】リサイクル等の推進により、最終処分量を37万トン以下とする。

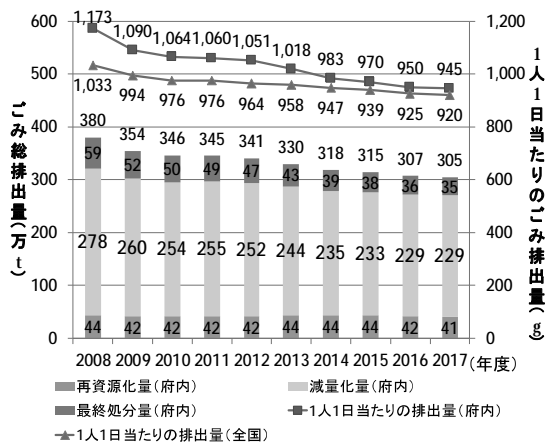
リサイクル社会を実現するための府民行動を拡大する。

- ・リサイクル製品を購入している府民の割合を倍増する。 (2009年度府民アンケート 34.3%)
- ・資源物*を分別している府民の割合を概ね100%にする。 (2009年度府民アンケート 89.4%)

*ペットボトルや空き缶、古紙等。

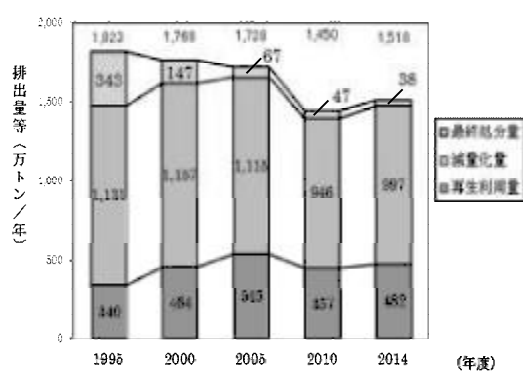
《目標に対する現状》

- 2017年度に府内から排出された一般廃棄物は305万トン、そのうち再生利用量は41万トン、最終処分量は35万トンとなっています。
- 2014年度に府内から排出された産業廃棄物は1,518万トン、そのうち再生利用量は482万トン、最終処分量は38万トンとなっています。



一般廃棄物の排出量等の推移

注) 四捨五入しているため、合計が合わない場合がある。



産業廃棄物の排出量等の推移

注) 四捨五入しているため、合計が合わない場合がある。

- リサイクル製品を購入している府民の割合：32.2% (2018年度)

- 資源物*を分別している府民の割合：85.7% (2018年度)

*ペットボトルや空き缶、古紙等。

注) 府民アンケート調査の対象者は、2015年度より、府政モニターから民間のインターネット調査会社が保有するモニターに変更しました。

●施策の方向

生産・流通、消費、再生・処理、最終処分の各段階における資源の循環に向けた取組みを促進し、資源循環型社会の構築を目指します。

- 再生原料・再生可能資源の利用促進
- 廃棄物排出量の削減
- リサイクル率の向上
- 最終処分量の削減
- 廃棄物の適正処理の徹底

2018年度の主な施策・事業と実績

■循環型社会推進計画の推進

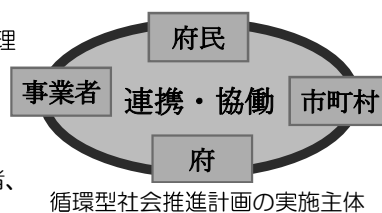
[- 千円]

(目的)

2016年度に策定した大阪府循環型社会推進計画に定めた3Rや適正処理等に係る目標を達成すること。(目標年度：2020年度)

(内容)

府民、事業者、行政が連携・協働し、3Rや適正処理に取り組みました。また、新たに設定した『成果を実感できる指標』を活用し、府民、事業者、市町村といった各主体の取組みをさらに促進しました。



<2018年度の実績>

- ・府内市町村の一般廃棄物の排出量、再生利用率等の状況の情報集約・公表

【参考】

○一般廃棄物 2017年度実績

◆目標項目

排出量 : 305万トン

再生利用率 : 13.4%

最終処分量 : 35万トン

1人1日当たりの生活系ごみ排出量：446g/人・日

◆成果を実感できる指標

1人1日当たりの資源ごみを含む生活系ごみ排出量：504g/人・日

生活系ごみ分別排出率：22.2%

ガラス等（主に行政により分別収集が行われている品目）のみの再生利用率：5.0%

最終処分量：11.5%

- ・産業廃棄物排出事業者、同処理業者に対する適正処理の指導
- ・建設業者に対し、廃棄物の適正処理、再資源化に関する説明会の実施
- ・優良な産業廃棄物処理業者を認定・公表

【参考】

○産業廃棄物 2014年度実績

◆目標項目

排出量 : 1,518万トン

再生利用率 : 31.8%

最終処分量 : 38万トン

◆成果を実感できる指標

排出量から減量化量を除いた再生利用率：92.7%

排出量から減量化量を除いた最終処分量：7.3%

【循環型社会推進室 06-6210-9567、06-6210-9570】

再生原料・再生可能資源の利用促進、リサイクル率の向上

■再生品普及促進事業

[175 千円]

(目的)

資源の循環的な利用の促進と循環型社会の形成に寄与する事業を営む事業者を育成すること。

(内容)

府内で発生した循環資源（廃棄物）を使用し国内で製造される、または国内で発生した循環資源を使用し府内で製造されるリサイクル製品で、府内で販売され、認定基準等に適合する製品を「大阪府認定リサイクル製品」として認定しています。

認定製品には、「なにわエコ良品」と、使用済み品を回収して繰り返しリサイクルする「なにわエコ良品ネクスト」があります。

「繰り返しリサイクルされる製品」にも注目して認定することで、「より質の高いリサイクル」を推進します。



「なにわエコ良品初社」認定マーク



認定製品（例）

<2018 年度の実績>

- ・認定製品について普及・PR するため、ホームページに掲載するとともに、環境関連イベント等に出展。
- ・新規申請者を増やすため、事業者や団体に対して制度の案内を行ったほか、メルマガの配信やちらしの開架、ポスター掲示の依頼など広報手段の拡大に向けて活動。
- ・年2回の認定を実施（2019年3月1日現在の認定製品数は245製品）



OASIS万博での出展

【循環型社会推進室 06-6210-9567】

■容器包装リサイクルの推進

[90 千円]

(目的)

「容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律（容器包装リサイクル法）」に基づき、府内における容器包装廃棄物の発生抑制や再商品化を促進すること。

(内容)

第8期大阪府分別収集促進計画（2017～2021年度、2020年度目標：分別収集量：23万4千トン）に基づき、市町村の分別収集の実施状況やリサイクル施設の整備状況を把握しました。また、分別収集や再商品化の促進に必要な収集体制、処理に関する改善方策等について情報提供を図りました。

ペットボトルの選別施設



破碎後のペットボトル

<2018 年度の実績>

- ・府内市町村の容器包装廃棄物の分別収集量、再商品化量等の状況の情報集約、公表。
- ・分別収集量：16万5千トン（2018年度速報値）

【循環型社会推進室 06-6210-9566】

廃棄物排出量の削減

■産業廃棄物の多量排出事業者による取組みの促進

[- 千円]

(目的)

事業者から提出された処理計画及び実施状況報告の内容を公表することにより、見える化を図り、事業者の自主的な産業廃棄物の減量化への取組み等を促進すること。

(内容)

事業活動に伴い多量の産業廃棄物を生ずる事業場を設置している事業者(多量排出事業者)は、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画及びその実施の状況について知事に報告することとなっています。

事業者から提出された報告の内容をホームページ上に速やかに公表することにより、事業者の自主的な産業廃棄物の減量化への取組み等を促進し、必要に応じ適切な助言を行いました。

<2018年度の実績>

処理計画及び実施状況報告の内容を速やかに公表しました。

【参考】2018年度公表状況

産業廃棄物処理計画 240件

産業廃棄物処理計画実施状況報告 232件

特別管理産業廃棄物処理計画 98件

特別管理産業廃棄物処理計画実施状況報告 89件

【循環型社会推進室 06-6210-9570】

■食品ロス削減対策の推進

[2,406 千円]

(目的)

府内の食品ロス削減に向けて、事業者・府民の取組みを促進すること。

(内容)

・府内製造事業者を対象としたアンケート調査により、製造事業者の取組みを促進する効果的な方策について検討しました。

・事業者と消費者などの関係者が一堂に会した「食品ロス削減ネットワーク懇話会」を設置し、情報共有や意見交換を行いました。その意見を踏まえて、消費者に対して効果的な啓発を実施する事業者を後押しし、さらに取組みを進めるための「おおさか食品ロス削減パートナーシップ制度」の創設や、キャンペーン等による発信を行い、食品ロス削減の機運を醸成しました。

・家庭から排出される食品ロスを削減する効果的な取組みを見出すため、家庭の食品ロス実態調査を実施しました。

・「環境にやさしい買い物キャンペーン」等による食品ロス削減についての府民啓発を実施しました。

<2018年度の実績>

- ・「おおさか食品ロス削減パートナーシップ制度」を創設(H31.2)。3月末時点で3事業者をパートナーに決定。
- ・食品ロス削減啓発用動画を作成し、市町村に配布し、4市町村が府民啓発等に活用。また、2017年度作成した啓発事例集は12市町村が活用。
- ・小売業、外食産業等事業者と連携し、食品ロス削減キャンペーンを実施(10月2月)
- ・10月の「環境にやさしい買い物キャンペーン」において、ポスターを掲示し府民啓発を実施。(参加店舗 739店舗)



啓発ポスター

【流通対策室 06-6210-9607】

【循環型社会推進室 06-6210-9566】

廃棄物の適正処理の徹底

■PCB 廃棄物適正処理の推進

[134,256 千円]

(内容)

PCB(ポリ塩化ビフェニル)使用製品及び廃棄物について、期限内(高濃度は2020年度末まで、低濃度は2026年度末まで)の完全処分を目指すこと。

(内容)

・PCB 特別措置法により、期限内処分の義務があるPCB使用製品及び廃棄物について、保有している事業場への立入検査などにより、法に基づく届出、適正管理及び期限内処分を行うよう指導を行いました。

・未把握のPCB 廃棄物等について、保有状況の実態調査やポスター等を活用した掘り起こしにより、府内のPCB 保有実態を把握し、保有が判明したものは、法に基づく届出等の指導を行いました。

・府が保有している小型コンデンサーや安定器等については、中間貯蔵・環境安全事業(株)(JESCO)北九州PCB 処理事業所で、2015年度から計画的に処理を行いました。

・国のPCB 廃棄物処理基本計画の変更に合わせ、大阪市と調整し、「大阪府PCB 廃棄物処理計画」の変更を行うとともに、近畿ブロック関係府県市と協力して、適正処理を推進しました。

・中小企業等によるPCB 廃棄物の処理を推進するため、国と都道府県が、(独)環境再生保全機構に拠出したPCB 廃棄物処理基金を通じて、中小企業等が負担する高濃度PCB 廃棄物の処理費用を軽減しました。

<2018年度の実績>

- ・JESCO 大阪PCB 処理事業所の処理対象である高圧機器等の処理進捗率
2019年3月末：93%
(登録台数を2018年3月末に固定した場合の進捗率 2019年3月末：97%)
- ・府保有の小型コンデンサ等の処理 5トン

【循環型社会推進室 06-6210-9570】



PCB 廃棄物(コンデンサ)保管状況の立入検査

■産業廃棄物の適正処理の徹底

[14,836 千円]

(目的)

廃棄物の排出事業者や処理業者への指導を徹底し、不適正処理の未然防止、早期発見を図ること。

(内容)

排出事業者や処理業者に対しては、産業廃棄物管理票(マニフェスト)の交付や適正処理に向けた指導の徹底を図りました。

また、産業廃棄物の野積みや野外焼却等の不適正処理の未然防止、早期発見に向けた随時のパトロールによる監視・指導など、警察等と連携しながら法令遵守の徹底を図るとともに、土地所有者等への土地の適正管理等の啓発・指導により不適正処理の未然防止を図りました。

<2018年度の実績>

- ・建設廃棄物の分別排出、混合廃棄物の発生・排出抑制の取組み促進、廃棄物の適正処理推進のため、説明会の開催、集中パトロール等を実施しました。
 - ・説明会の開催 3回
 - ・不適正処理防止推進強化月間 6月・11月
- 【参考】2018年度 不適正処理件数 427件

【循環型社会推進室 06-6210-9570】



産業廃棄物の不適正処理現場(野外焼却)

■使用済の電子機器に係る規制指導

[1,074 千円]

(目的)

使用済の電気電子機器が、環境対策が行われないまま破砕などされ、有害物質の飛散・流出等や火災の発生により生活環境に影響を及ぼすことがないよう、適正な保管・処分を推進すること。

(内容)

2018年4月から廃棄物処理法に基づき、使用済の電気電子機器（廃棄物を除く）の保管・処分を行おうとする者は、「有害使用済機器」の知事等への届出が必要になりました。そのため、これらを取り扱う業者に対し、説明会の開催等を通じて制度の周知を図りました。また、届出業者には立入検査等により、有害物質の飛散・流出等や火災発生を防止するために、保管・処分の基準遵守を指導しました。



使用済電子機器保管ヤード

<2018年度の実績>

- ・立入検査等 136件
- ・届出書の提出 14件
- ・取扱業者への説明会の実施 3回

【循環型社会推進室 06-6210-9570】

■廃棄物最終処分場の適正管理等

[146,885 千円]

(目的)

廃棄物最終処分場の適正管理及び確保を図ることにより、廃棄物の適正処理を進め、生活環境の保全及び公衆衛生の向上に資すること。

(内容)

大阪湾圏域広域処理場整備事業（フェニックス事業）について、関係地方公共団体と協力し、事業促進を図りました。

また、産業廃棄物最終処分場である堺第7-3区について、周辺環境等に影響を及ぼさないよう、法令に則した適切な維持管理等を行いました。



フェニックス処分場での
廃棄物受入

<2018年度の実績>

- ・フェニックス事業について、フェニックスセンター及び関係地方公共団体等と連携し、次期計画の具体化に向けた取組み等を行いました。（会議等：9回）
- ・堺第7-3区について、浸出水等が周辺環境へ影響を及ぼさないよう、排水処理施設及び水質改善設備の維持管理並びに水質の環境調査等を行いました。また、施設の老朽化に対応するため、護岸の被覆防食工事等を行いました。

環境調査 年 12回 2,064 検体

護岸被覆防食工事 65m

老朽化対策工事（排水路） 0m

（台風 21 号による災害復旧工事を優先したため、老朽化対策工事は当初計画より縮小しています）

【循環型社会推進室 06-6210-9569】

[]内の数字は2018（平成30）年度決算額

II-3 全てのいのちが共生する社会の構築

《2020年度の目標》

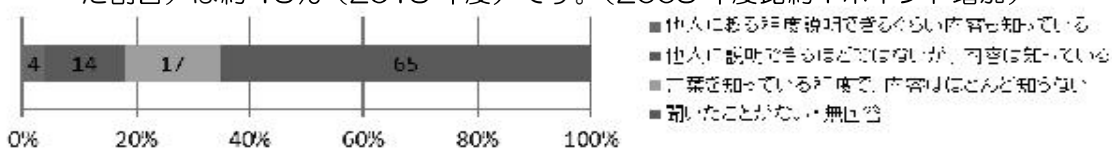
生物多様性の府民認知度を70%以上にする。(2008年度府民アンケート16.9%)

生物多様性の損失を止める行動を拡大する。

- ・ 活動する府民を倍増する。(2014年府民アンケート 6.0%)
- ・ 保安林や鳥獣保護区等の生物多様性保全に資する地域指定を新たに2,000ha拡大する。(2009年度比)

《目標に対する現状》

- 生物多様性に関する府民の認知度（「他人にある程度説明できるぐらい内容も知っている」と「他人に説明できるほどではないが、内容は知っている」と回答した割合）は約18%（2018年度）です。^注（2008年度比約1ポイント増加）



(参考1)「言葉を知っている程度で、内容はほとんど知らない」を含めた生物多様性という言葉の認知度は約35%です。

(参考2)上記の認知度の回答に関わらず、下記の生物多様性に関わる項目のいずれかについての認知度は約65%です。

1. 生きものはそれぞれの豊かな個性とつながりにより、支え合って生きていること
2. 私たちの生活は、生物多様性によってもたらされる生きものの恵みによって成り立っていること
3. 人々の暮らしや関わりにより維持されている里地里山が生物多様性上大切であること
4. 世界の森林やサンゴ礁が、年々減少していること
5. 希少な動植物について、国や自治体がレッドデータブックやレッドリストを作成していること
6. 国際的に生物多様性条約が定められていること
7. 外来生物が日本の在来種の生息環境を脅かし、生態系への悪影響や農作物への被害などの問題を引き起こしている

注)府民アンケート調査の対象者は、2015年度より、府政モニターから民間のインターネット調査会社が保有するモニターに変更しました。

- 保安林や鳥獣保護区等生物多様性保全に資する地域指定は83,940ha(2019年3月末)です。(2009年度比1,970ha増加)

生物多様性の保全に資する地域指定状況

名称	指定面積(ha)	名称	指定面積(ha)
保安林	17,292	自然環境保全地域	38
鳥獣保護区	12,914	緑地環境保全地域	37
国定公園	16,498	特別緑地保全地区	3
府立自然公園	3,541	自然海浜保全地区	22
近郊緑地保全区域	33,580	国・府指定天然記念物	15
		合計	83,940

●施策の方向

生物多様性についての府民理解を促進し、生物の生息環境の保全と回復への行動を促進します。

- 生物多様性の重要性の理解促進
- 生物多様性に配慮した行動促進
- 府民と連携したモニタリング体制の構築
- 生物多様性保全に資する地域指定の拡大
- エコロジカルネットワークの構築推進

2018年度の主な施策・事業と実績

生物多様性の社会への浸透

■天然記念物イタセンパラの保護増殖及びこれを利用した普及啓発事業

[- 千円]

(目的)

淀川に生息する天然記念物で種の保存法選定種の淡水魚イタセンパラの野生復帰の試みと、それらを用いた普及啓発を推進し、自然保護や生物多様性保全の重要性についての理解を深めること。

(内容)

(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所水生生物センター(現・生物多様性センター)において、センター内で生息域外保存しているイタセンパラを、2009年度から国土交通省・淀川河川事務所と共同で淀川に放流し、野生復帰を試みました。過去5年間の調査では、放流した成魚が繁殖し、野生での定着が確認されています。

2018年度は、淀川での繁殖状況の確認や、外来種の生態や駆除及び魚病に関する調査研究等を行うとともに、「淀川水系イタセンパラ保全市民ネットワーク(イタセンネット)」が行う保全活動を支援しました。さらに、親子等府民を対象とした観察会の開催、小中学校等へのイタセンパラの出張展示や出前講座を実施し、自然保護や生物多様性保全の重要性について普及啓発を図りました。



イタセンパラ



地元児童による放流

<2018年度の実績>

- ・外来魚駆除の研究成果を用いて集中的に駆除を行った水域では、在来種の種類や個体数が急速に回復していることを確認しました。
- ・2013年にイタセンパラの公開放流を実施した水域では、自然繁殖により稚魚が約20,000尾確認され、放流後最大の生息数となりました。
- ・小学校の出前授業(2回実施)では71名とイタセンパラの生体観察を行うとともに、生物多様性の重要性を啓発しました。
- ・市民ネットワークによるイタセンパラの野生復帰を支援する取り組み(21回実施)に延べ約1,200名が参加しました。

【みどり推進室 06-6210-9557】

■生物多様性保全のための普及啓発推進

[1,638 千円]

(目的)

生物多様性の意義や重要性の理解促進を図るため、生物多様性に関わる施設等との連携のもと、普及啓発を進めること。

(内容)

生物と人との関わりや、生物多様性の重要性について、生物多様性関連施設のネットワークであるおおさか生物多様性施設連絡会や、大学のネットワークなどを活用して、府民理解の促進に向けた生物多様性の普及啓発を進めるとともに、ボランティアなどの人材育成を進めました。

また、国、市町村、関係機関とも連携し、特定外来生物連絡協議会などの場を活用し、特定外来生物の防除等に関する情報共有や研修会などを行い効果的な対策を進めました。



生物多様性施設連絡会

<2018年度の実績>

- ・おおさか生物多様性施設連絡会の開催 1回
- ・教員等指導者向け生物多様性普及啓発冊子の改訂
- ・特定外来生物ヒアリ注意喚起リーフレットの作成
- ・外来生物普及啓発リーフレットの作成

【みどり推進室 06-6210-9557】

生息環境の保全

■日本万国博覧会記念公園事業（市民参画型事業）

[26,815 千円]

（目的）

万博記念公園において、市民参画等により園内環境を整備し、生物多様性の保全を図ること。

（内容）

NPO 団体との協働等により、竹林や花壇、森林の整備を行うと共に、生物生息調査や自然ガイドといった情報収集・発信を行いました。

（2018 年 10 月から、指定管理者に事業を引き継ぎました）



竹林の保全活動

〈2018 年度の実績〉

NPO 団体との協働による管理

- ・竹林・田畑・果樹園 5.2ha
- ・園内花壇 0.6ha

【日本万国博覧会記念公園事務所 06-6877-3349】

生息環境の再生・創造

■共生の森づくり活動の推進

[6,224 千円]

（目的）

堺第 7-3 区産業廃棄物最終処分場において、自然再生のシンボルとなる共生の森を整備し、多様な主体との協働による森づくり活動を支援すること。

（内容）

堺第 7-3 区産業廃棄物処分場の一部「共生の森（約 100ha）」において、野鳥や小動物の生息する草地や水辺等に森林が介在する大規模な“みどりの拠点”を創出するために、府民、NPO、企業等多様な主体との連携による植栽、草刈、間伐等の森づくり活動と、自然観察等の自然環境学習を実施しました。



共生の森での森づくり活動

〈2018 年度の実績〉

- ・参加人数：543 人／年
- ・企業や府民による植栽面積：約 0.2ha

【みどり推進室 06-6210-9557】

[]内の数字は 2018（平成 30）年度決算額

Ⅱ-4 健康で安心して暮らせる社会の構築（1） ～良好な大気環境を確保するために～

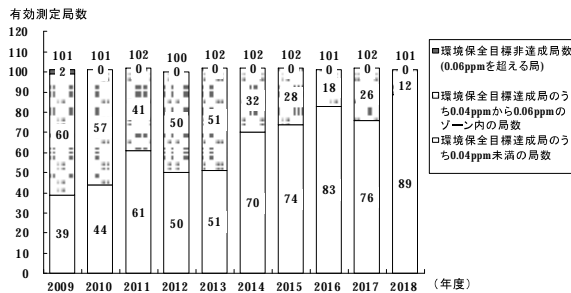
《2020年度の目標》

大気環境をさらに改善する。

- ・ 二酸化窒素の日平均値 0.06ppm 以下を確実に達成するとともに、0.04ppm 以上の地域を改善する。
- ・ 微小粒子状物質（PM2.5）の環境保全目標を達成する。
- ・ 光化学オキシダント濃度 0.12ppm（注意報発令レベル）未満を目指す。

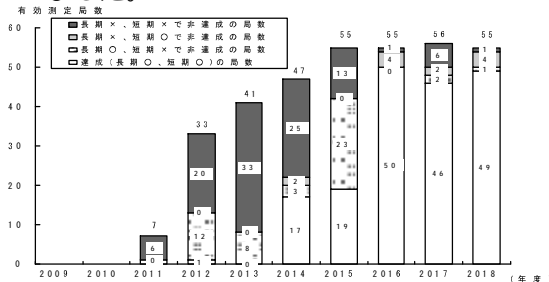
《目標に対する現状》

- 二酸化窒素は、改善傾向にあり、環境保全目標（1時間値の1日平均値が0.04～0.06ppmのゾーン内、またはそれ以下）の上限値0.06ppmを下回るレベルに達し、8割以上の地域が0.04ppm未満となっています。



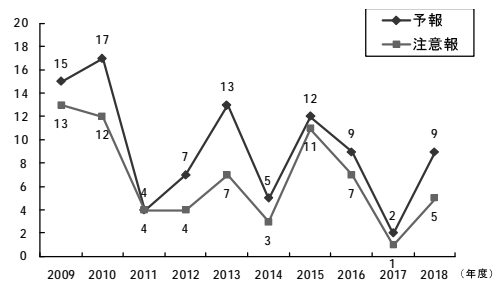
二酸化窒素の環境保全目標達成局数の推移

- PM2.5は、2011年度から自動測定機を順次整備し、常時監視をしています。2018年度は、55局（有効測定局）で測定を行い、49局で環境保全目標を達成しました。



微小粒子状物質（PM2.5）の環境保全目標達成局数の推移

- 光化学スモッグ注意報の発令回数は、年度毎に気象条件による変動が大きく、増減を繰り返しています。また、九州地方から東北地方の広い範囲で発令があり、西日本や日本海側では、広域移流の影響も指摘されています。



光化学スモッグの発令回数の推移

光化学スモッグとは

光化学オキシダントの濃度が高くなったとき、気象条件により白くモヤがかかったようになる現象のこと。人体への影響としては、目やのどへの刺激を中心とする被害が報告されています。

PM2.5とは

大気中に浮遊する粒子状物質のうち、粒径2.5マイクロメートル以下の微小な粒子のことをいいます。肺の奥深くまで入り込みやすく、長期的に一定濃度以上吸入すると、呼吸器疾患、循環器疾患等の影響が懸念されるため、環境基準が設定されています。
※環境基準は2009年9月に「1年平均値15 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下、かつ、1日平均値が35 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下」に定められました。

● 施策の方向

自動車排出ガス対策や工場等の固定発生源対策を推進します。

- 自動車から排出される窒素酸化物（NO_x）と粒子状物質（PM）の削減対策の推進
- PM2.5の現状把握と対策の検討・実施
- 揮発性有機化合物（VOC）の排出削減
- 建築物の解体工事に伴うアスベストの飛散防止対策の徹底

2018 年度の主な施策・事業と実績

固定発生源対策の推進

■大気汚染防止の事業所規制

[1,899 千円]

(目的)

大気汚染防止法、ダイオキシン類対策特別措置法及び大阪府生活環境の保全等に関する条例に基づき、事業所に対して大気汚染物質の排出規制を行い、大気環境基準を達成すること。

(内容)

法・条例に基づく特定施設・届出施設等の設置・変更の事前届出を義務付け、ばい煙 (NO_x、SO_x、ばいじん、有害物質)、揮発性有機化合物、一般粉じん、水銀、ダイオキシン類等が排出基準、設備構造基準に適合しているかを審査し、必要に応じ指導を行いました。

事業所に対する立入検査は、法・条例による規制の実効性を確保するため、施設や排ガス測定結果の検査を行なうとともに、事業者の点検結果等を報告させることにより、適正な指導を行いました。

また、規制基準の適合状況を確認するため、行政による排ガス等の測定を実施しました。

〈2018 年度の実績〉

- ・規制基準が適用される特定施設・届出施設を設置している事業所に対して、立入検査をのべ 423 回実施

※ダイオキシン対象事業所には全数立入検査を実施したものの、総量規制対象事業所には一部立入検査を実施できませんでした。

【参考】

- ・大規模排出事業所 NO_x 測定 2 事業所
- ・使用燃料等測定 4 事業所
- ・ダイオキシン類排出濃度測定 2 事業所
- ・揮発性有機化合物濃度測定 1 事業所
- ・水銀濃度測定 2 事業所
- ・水銀排出事業者の届出審査及び全数立入検査



検査のために
処理施設から
排ガス採取

【環境管理室 06-6210-9581】

自動車排ガス対策の推進

■自動車NOx・PM総量削減計画の推進（計画の進行管理）

[4,686千円]

（目的）

窒素酸化物（NOx）及び粒子状物質（PM）の削減のため、2013年6月に策定した自動車NOx・PM総量削減計画〔第3次〕に基づき、関係機関が各種自動車環境対策を連携・協力して推進するとともに、府が適切に計画の進行管理を行い、2020年度までに対策地域全体で二酸化窒素（NO2）及び浮遊粒子状物質（SPM）に係る大気環境基準を達成すること。

（内容）

関係機関（関係市町村、道路管理者等）と連携し、流入車規制の推進、エコカーの普及促進、エコドライブの推進、交差点対策（右折レーン設置等の渋滞対策）等の交通流対策等の諸施策を総合的に推進しました。

併せて、道路交通センサや自動車輸送統計調査などを基に、自動車からのNOx・PMの排出量を推計するとともに、自動車環境対策の進捗状況を把握しました。

〈2018年度の実績〉

- ・NO2及びSPMに係る大気環境基準を全監視測定局で達成（2018年度）
- ・対策地域におけるNOx・PM排出量の把握

NOx：11,990トン、PM：560トン（2017年度）

※2018年度実績は2019年12月確定予定



自動車NOx・PM総量削減計画策定協議会幹事会の開催

【環境管理室 06-6210-9586】

■流入車対策の推進

[338千円]

（目的）

府内の対策地域内への非適合車の流入を規制することにより、NOx・PMの排出量を削減し、大気環境基準の継続的・安定的な達成を図ること。

（内容）

大阪府生活環境の保全等に関する条例に基づく流入車規制を推進します。「非適合車ゼロ宣言」のスローガンを掲げ、非適合車の根絶を目指して立入検査や指導を実施しました。

比較的非適合率の高い自家用自動車対策として、出入りの多い施設管理者等と連携し、利用者への条例の周知を強化しました。

改善指導に従わず、車種規制適合車等の使用義務に違反する事業者に対し、条例に基づき使用命令を発令するとともに氏名等を公表しました。

〈2018年度の実績〉

立入検査：53回 7,056台を検査（累計※833回、約60,900台）

命令・公表：2件

他府県などから流入する非適合車の割合が大幅に減少

（条例制定前の2007年度：17%→2018年度：0.2%）

〈参考〉命令・公表39件（2018年度末累計※） ※2008年度以降



流入車規制の立入検査

【環境管理室 06-6210-9586】

光化学オキシダント・SPM対策の推進

■光化学オキシダント・VOC対策の推進

[80 千円]

(目的)

府民の健康を守るため、光化学スモッグの原因物質の一つである揮発性有機化合物（VOC）の排出量を削減すること。

(内容)

VOC の排出規制を着実に実施するとともに、化学物質管理制度に基づく事業者による適切な管理等を促進することにより削減しました。

また、光化学スモッグ予報等の発令時には、健康被害の未然防止のため府民への周知を行うとともに、削減措置の対象工場へ NO_x や VOC の削減要請を行いました。



光化学スモッグ発令画面

<2018 年度の実績>

VOC 排出量削減のための法・条例による規制・指導

VOC 届出排出量 10,200 トン/年(2017 年度実績)

【参考】

- ・光化学スモッグ発令時の緊急時対象工場への NO_x 削減要請
2018 年度 のべ 1,307 回
- ・光化学スモッグ発令時の緊急時対象工場への VOC 削減要請
2018 年度 のべ 456 回

【環境管理室 06-6210-9577】

PM2.5 対策の推進

■微小粒子状物質（PM2.5）の常時監視と的確な注意喚起の実施

[12,354 千円]

(目的)

PM2.5 について効果的な対策を行うため、監視測定局を整備して連続測定を行い、監視結果を府民に分かりやすく提供するとともに、府民の安全・安心を確保するため、PM2.5 の情報や注意喚起を的確に発信すること。

また、PM2.5 の成分分析結果等を用いた解析を行い、発生源寄与割合の推計等についての知見を集積すること。

(内容)

府管理の測定局 26 局で自動測定機による連続測定を行い、結果をホームページで分かりやすく提供するとともに、季節ごとに成分分析を行うことにより、府内における PM2.5 の構成成分の実態及び季節変化を把握しました。

また、PM2.5 濃度が高くなると予測される場合、注意喚起の情報を防災情報メール等により速やかに発信する体制を整備・運用しました。

さらに、測定結果や発生源対策に係る国の調査・検討状況を踏まえ、効果的な削減対策を進めるため、(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所と連携して、PM2.5 の各発生源からの寄与の解析等について調査研究を行いました。



PM2.5 自動測定機



粒子の大きさ比較

<2018 年度の実績>

- ・微小粒子状物質の濃度の連続測定
府所管局 26 局（国設局 2 局を含む）で通年実施
（うち、一般局 20 局、自排局 6 局）
- ・環境大気中の微小粒子状物質の状況把握（成分分析）
府内 2 地点（年 4 回実施）

【環境管理室 06-6210-9621】

アスベスト飛散防止対策の推進

■ 府有施設吹付アスベスト対策事業

[128,965 千円]

(目的)

府有施設において使用されているアスベストによる健康被害を防ぐこと。

(内容)

アスベストによる健康被害を防ぐため、府有施設において使用されている吹付アスベストの除去対策工事を実施するとともに、空気環境測定等の定期点検を実施しました。

〈2018 年度の実績〉

- ・アスベスト除去対策工事の実施 11 施設
- ・空気環境測定の実施 306 箇所

【公共建築室 06-6210-9788】

■ アスベスト飛散防止対策等の推進

[1,255 千円]

(目的)

府民の健康を守るため、大気汚染防止法及び大阪府生活環境の保全等に関する条例に基づく立入検査、石綿濃度測定等を行い、建築物等の解体・改造・補修に係るアスベスト飛散防止の徹底を図ること。

(内容)

アスベストの飛散防止対策を強化するため、建設リサイクル法の届出情報を活用し、事前調査の内容確認や届出対象規模未達の解体現場等への立入検査を実施しました。

特に「アスベスト飛散防止推進月間」と位置付けている6月と12月に解体現場パトロールを実施するとともに、6月には、府民・事業者を対象とした飛散防止対策セミナーを実施し、12月には、関係団体・市町村と「大阪府「みんなで防止!!石綿飛散」推進会議」を開催し、徹底した石綿飛散防止対策の周知の取組みの共有を行いました。



大気中の石綿濃度測定

〈2018 年度の実績〉

- ・届出対象解体現場へ飛散の恐れが少ない作業を除いて全数立入
立入件数 106 件（届出件数：160 件）
- ・条例届出対象規模未達の工場・倉庫等の解体現場等への立入検査件数 294 件
- ・公定法による測定件数 56 件
- ・6月に「大阪府石綿飛散防止対策セミナー」、12月に『大阪府「みんなで防止!!石綿飛散」推進会議』を開催。
- ・石綿健康被害救済制度の円滑な運用
※救済基金への拠出は 2016 年度で終了。

【環境管理室 06-6210-9581】

[]内の数字は 2018（平成 30）年度決算額

Ⅱ－４ 健康で安心して暮らせる社会の構築（２）

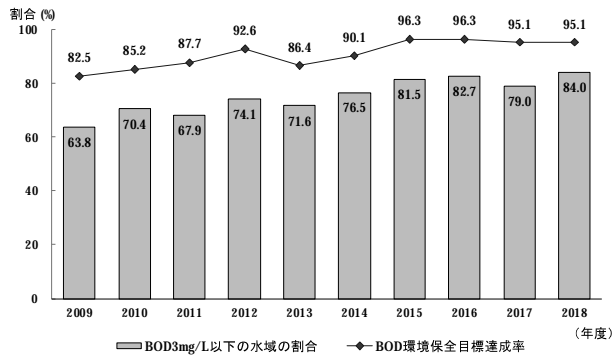
～良好な水環境を確保するために～

《２０２０年度の目標》

- 人と水がふれあえ、水道水源となりうる水質を目指し、水環境をさらに改善する。
 - ・ BOD（生物化学的酸素要求量）3 mg/L 以下（環境保全目標のB類型）を満たす河川の割合を8割にする。
- 多様な生物が棲む、豊かな大阪湾にする。
 - ・ 底層 DO（溶存酸素量）5 mg/L 以上（湾奥部は3 mg/L 以上）を達成する。
 - ・ 藻場を造成する（藻場面積 400ha を目指す）。

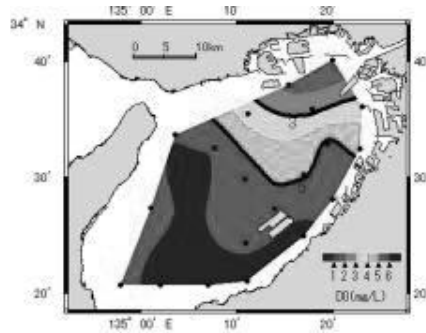
《目標に対する現状》

- 河川の水質は、工場・事業場の排水処理対策や下水道の整備等によって全体的に改善傾向がみられます（BOD3mg/L 以下を約8割の水域で達成）。



府内河川における BOD の環境保全目標達成状況及び BOD 3 mg/L 以下の水域の割合の推移

- 夏季に湾奥部や埋立てのための海底土砂採取等で生じた窪地で発生する貧酸素水塊や青潮が水生生物に影響を与えています。



夏基底層 DO の分布図
(2016～2018 年度平均)

貧酸素水塊とは

水に溶けている酸素の量が極めて少ない水塊のこと。

- 大阪府の海岸は、埋立てや海岸整備等により、自然海岸が全体のわずか1%という状況であり、魚介類の産卵・育成に不可欠な藻場は近年横ばい傾向で推移しています（2018年度推計値：365ha）。

● 施策の方向

流域の特性に応じた水質、水量、水生生物、水辺等を総合的に捉えて対策を推進します。

- 生活排水の 100%適正処理を目指した生活排水処理対策の促進や総量規制等の工場・事業場排水対策の推進
- 健全な水循環の保全・再生
- 大阪湾の環境改善対策の推進

2018 年度の主な施策・事業と実績

水質汚濁負荷量の削減

■総量削減計画の進行管理

[1,192 千円]

(目的)

府内から発生し大阪湾に流入する化学的酸素要求量 (COD)、窒素 (T-N)、りん (T-P) の量を削減し、閉鎖性水域である大阪湾の水環境の改善を図ること。

(内容)

COD、T-N、T-Pに係る第8次総量削減計画の進行管理を行うため、関係機関等から入手した各種データの整理を行うことにより、発生負荷量を把握しました。

また、同計画に基づく水環境の改善に向けた対策を推進する上で必要なデータを得るため、湾奥部の高閉鎖性水域における調査を行いました。

<2018 年度の実績>

- ・2017 年度の COD、T-N、T-P の発生負荷量を把握し、発生負荷量削減の進捗管理を実施
(2017 年度) COD 45t/日、T-N 45t/日、T-P 2.7t/日
- ・雨天時流入負荷の実態調査、栄養塩類の滞留状況の調査、海水の流れの状況の調査を、大阪港から堺泉北港にかけて実施したところ、大阪湾の湾奥部は栄養塩類の濃度が高く、場所によっては海水が滞留し、生物の生息に厳しい環境であることが確認された。

【環境管理室 06-6210-9577】

■水質汚濁防止の事業所規制

[5,494 千円]

(目的)

水質汚濁防止法、瀬戸内海環境保全特別措置法、ダイオキシン類対策特別措置法及び大阪府生活環境の保全等に関する条例に基づき、事業所に対して水質汚濁物質等の排出規制及び有害物質の地下浸透規制を行い、水質環境基準の達成及び有害物質による地下水汚染の防止を図ること。

(内容)

法・条例に基づく施設の設置・変更の事前届出を義務付け、生物化学的酸素要求量 (BOD) や有害物質等の排水基準、設備構造基準に適合しているかを審査し、必要に応じ指導を行いました。

また、規制の実効性を確保するため、届出施設等について立入・採水検査を実施し、排水基準や施設等の構造基準の遵守指導を行いました。



事業所排水の採水検査

<2018 年度の実績>

- ・排水基準や構造基準が適用される事業場等の全てに対して、採水または立入検査をのべ 494 回実施
(試料採取・分析件数：229 件)
- ・総量規制で連続測定が義務づけられる事業場 (23 事業場) のうち 10 事業場で、総量採水検査を実施

【環境管理室 06-6210-9585】

■生活排水対策事業

[22 千円]

(目的)

河川等の良好な水環境を確保するため、生活排水の負荷量の削減を図ること。

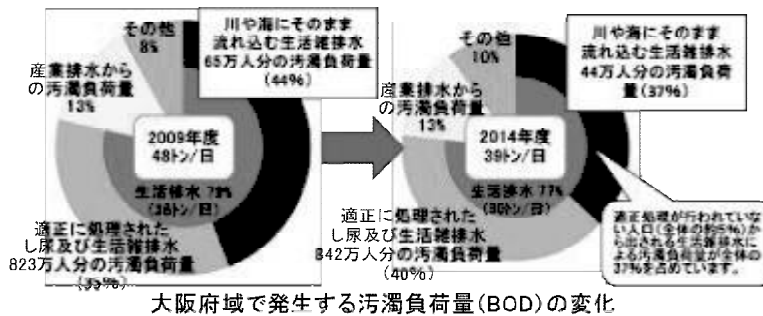
(内容)

河川等の汚濁の原因の約8割を占める生活排水の負荷量を削減するため、「市町村生活排水処理計画」の見直し等へ技術的支援を行い、下水道や合併処理浄化槽等の生活排水処理施設の効率的・効果的な整備を促進しました。

また、「大阪府生活排水対策推進月間」(2月)を中心にイベントや街頭啓発を通じて、家庭でできる生活排水対策の実践の浸透を図りました。



イベントでの生活排水対策の啓発



<2018年度の実績>

- ・生活排水適正処理率が2017年度末で95.8%と前年度より0.3ポイント上昇
- ・「市町村生活排水処理計画」の見直し等に係る市町村ヒアリング 5回
- ・イベントへの出展や街頭啓発の実施回数 25回

【環境管理室 06-6210-9585】

■浄化槽整備事業の推進

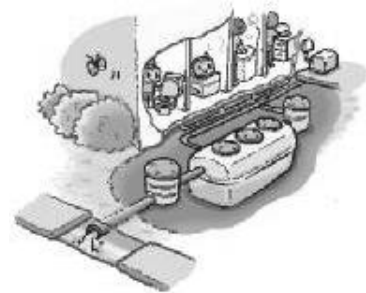
[17,879 千円]

(目的)

生活排水対策やトイレの水洗化による生活環境の改善のために、合併処理浄化槽の整備を推進すること。

(内容)

個人が浄化槽を設置する際の費用の一部を助成する「浄化槽設置整備事業(個人設置型)」及び市町村が主体となって各戸に浄化槽を整備し、住民から使用料を徴収して管理運営する「浄化槽市町村整備推進事業(市町村設置型)」を実施する市町村に対して、引き続き府費補助金を交付するなど、より一層の浄化槽整備を図りました。



合併処理浄化槽設置イメージ

<2018年度の実績>

- ・浄化槽設置整備事業(個人設置型) 38基設置(10市町村)
- ・浄化槽市町村整備推進事業(市町村設置型) 26基設置(5市)

【環境衛生課 06-6944-9181】

大阪湾の環境改善

■豊かな大阪湾の創出に向けた取組みの推進

[1,215 千円]

(目的)

大阪湾沿岸の自治体等の関係機関と連携し、水質汚濁防止・改善を図ることにより豊かな大阪湾の創出を目指すこと。

(内容)

「瀬戸内海の環境の保全に関する大阪府計画」に基づき、豊かな大阪湾の創出に向けた取組みを推進しました。

また、大阪湾沿岸 23 自治体で構成する「大阪湾環境保全協議会」において、大阪湾の環境保全を啓発しました。

さらに、大阪湾再生推進会議（事務局：近畿地方整備局、国・府県・市等で構成）が策定した「大阪湾再生行動計画」に基づき、総量規制や生活排水対策、水質一斉調査などを実施し、関係機関と連携しながら大阪湾の水質改善を推進しました。

<2018 年度の実績>

- ・大阪湾の魅力を発掘・発信するためのフォトコンテストを実施し、入賞者表彰式を開催するとともに、入賞作品の巡回展示を南海なんば駅・関西国際空港・大阪府庁（本館・咲洲庁舎）で実施
- ・鉄道事業者と協働し、エコツーリズムを実施（2回）
- ・大阪湾フォーラムの開催、フィッシングショー等のイベントへの出展（6回）
- ・常時監視及び大阪湾再生水質一斉調査による大阪湾の水質モニタリングの実施（36 機関により一斉調査 546 地点）



「フィッシングショー-OSAKA」
出展イベントの様子

【環境管理室 06-6210-9577】

■大阪湾漁場環境整備事業

[44,765 千円]

(目的)

貧酸素水塊の発生及び栄養塩が滞留している海域に攪拌ブロック礁を設置し、底層から表層にかけて湧昇流や攪拌流を発生させ、海域環境の改善を行うとともに栄養塩を緩やかに南下させること。

(内容)

岸和田市沖の一般海域に潮流攪拌機能を持つブロック礁を設置し、海水中への栄養塩の供給や底質への酸素の供給など、魚介類の生育環境の向上を図りました。また、2014～2017年度に設置した整備済み工区（岸和田市北部）で、栄養塩の巻き上げ、溶存酸素濃度の改善、底質の硫化物濃度の改善効果などを把握しました。



攪拌ブロック礁

<2018 年度の実績>

- ・攪拌ブロック礁を岸和田市沖に設置し、1 ha の漁場環境整備を実施

【水産課 06-6210-9612】

■流域下水道事業の推進

[32, 112, 019 千円]

(目的)

流域下水道の整備を進めることにより、公共用水域の水質改善を促進し、BODの環境保全目標の達成率の向上及び閉鎖性水域の富栄養化の軽減を図ること。

(内容)

大阪府の下水道普及率は96%を超えており、水みらいセンター（下水処理場）や流域下水道幹線などの基幹施設は概成していることから、管渠、ポンプ場、水みらいセンターの計画的な改築など下水道の機能維持に取り組み、引き続き大阪湾や河川等の公共用水域の水質改善を図りました。

また、水みらいセンターとポンプ場においては、合流式下水道の改善を推進しました。

〈2018年度の実績〉

下水道普及率の向上

【参考】下水道普及率 96.5%（2018年度末現在）

施設整備内容

寺島貯留施設（合流改善施設）、小阪合ポンプ場（分合流切り離し）を整備中。川俣水みらいセンター他（監視制御設備更新）、桑才ポンプ場他（雨水ポンプ設備更新）を整備中。（水みらいセンター12箇所、ポンプ場21箇所）



水みらいセンター

【下水道室 06-6944-6794】

[]内の数字は2018（平成30）年度決算額

Ⅱ－４ 健康で安心して暮らせる社会の構築（３） ～化学物質のリスク管理を推進するために～

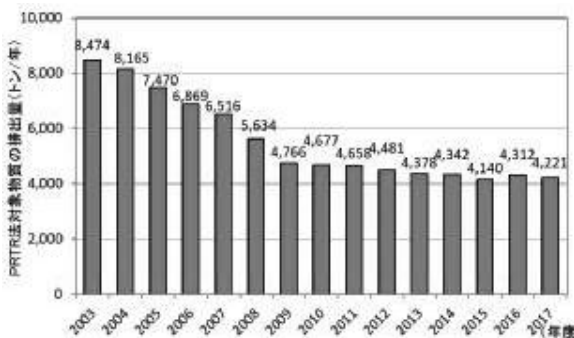
《２０２０年度の目標》

環境リスクの高い化学物質の排出量を 2010 年度より削減する。

《目標に対する現状》

■ 府内における PRTR 法対象物質の届出排出量は減少傾向にあります。

■ 府内における PRTR 法対象物質の排出量は、全国第 9 位となっています。（可住地面積当たり排出量では全国第 2 位）



府内における PRTR 法対象物質の届出排出量の経年変化

※届出排出量の数値は、最新の届出内容に基づき過去に遡って修正しています。

都道府県	届出排出量(t)	届出外排出量(t)			排出量合計(t)
		事業所	家庭	移動体	
1 愛知県	10,406	6,956	2,958	3,125	23,446
2 東京都	1,593	12,307	1,484	3,160	18,545
3 静岡県	8,469	3,761	1,875	2,090	16,195
4 千葉県	5,341	5,815	2,391	2,642	16,189
5 埼玉県	6,842	4,203	2,265	2,759	16,069
6 茨城県	6,409	5,257	1,539	2,065	15,271
7 広島県	9,592	2,806	1,207	1,571	15,176
8 神奈川県	5,379	5,556	1,406	2,590	14,931
9 大阪府	4,221	6,424	1,717	2,489	14,851
10 福岡県	6,222	4,180	1,677	2,141	14,220
その他	87,544	69,859	27,454	40,988	225,845
合計	152,017	127,123	45,975	65,620	390,737

都道府県別の PRTR 法対象物質の排出量（2017 年度）

PRTR 法とは

人の健康や生態系に有害なおそれのある化学物質の環境中への排出量等を把握、集計、公表する仕組み。現在 462 物質がこの法律の届出対象として指定されています。

● 施策の方向

環境リスクの高い化学物質の排出削減や人等への悪影響が懸念される化学物質に対する予防的取組みを推進するとともに、府民・事業者・行政等様々な主体の環境リスクについての理解促進を図ります。

- 環境リスクの高い化学物質の排出削減
- 化学物質に関するリスクコミュニケーションの推進
- 残留性有機汚染物質や汚染土壌等の適正管理・処理

2018 年度の主な施策・事業と実績

環境リスクの高い化学物質の排出削減

■ 環境リスクの高い化学物質の排出削減

[216 千円]

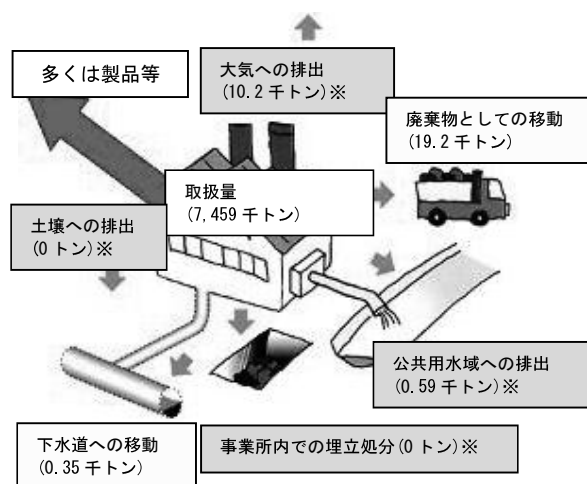
(目的)

化学物質に係る環境リスクを低減すること。

(内容)

環境リスクの高い化学物質の排出削減を図るため、PRTR法及び大阪府生活環境の保全等に関する条例に基づき、化学物質の排出量等の届出の受理、データの集計・公表を行うとともに、事業者に対する指導・助言を行いました。

また、排出量削減の効果を検証するため、有害大気汚染物質モニタリング等の測定データを活用し、環境中への排出量データと環境濃度の経年的な傾向及びその関連性等について比較検討を進めました。



2017 年度の府域における化学物質の
届出排出量・移動量・取引量

※届出排出量の合計：10.8 千トン

<2018 年度の実績>

- 排出量等の届出件数： PRTR 法 1,482 件、条例 1,254 件
- 環境リスクの高い化学物質の排出量 11,300 トン（PRTR 法対象物質 4,221 トンを含む）
（2017 年度実績）

【環境管理室 06-6210-9578】

■大規模災害時における化学物質による環境リスク低減対策の推進

[- 千円]

(目的)

大規模災害に備えた事業者による化学物質の自主的管理の強化を図ること。

(内容)

事業者に対し、南海トラフ巨大地震等の大規模災害時の化学物質による環境リスクを把握し、その低減方策を検討・実施した管理計画書を、2014年度から2016年度までの3年間で、段階的に届出を求めました。

届出された計画書に沿って対策が行われていくよう進捗状況を把握するとともに、引き続き、立入検査等により対策推進の指導を行いました。

さらに、届出対象規模未満の事業所を有する事業者に対しても、業界団体を通じて、対策手法や事例等について情報提供を行うことにより対策の検討・実施を促進しました。

また、災害時の消防活動をより安全なものにするため、事業者からの届出情報に基づき、市町村消防部局に対し、化学物質の取扱情報を定期的に提供しました。



対策事例集「化学物質を扱う事業所で今日からできる対策事例～明日起きるかもしれない大地震に備えて～」

<2018年度の実績>

- ・大規模災害に備えたリスク低減対策に関する管理計画書の届出件数：513件（2018年度までの累計）
- ・立入検査件数：98件

【環境管理室 06-6210-9578】

■大阪エコ農業の推進

[18,335千円]

(目的)

農業の環境への負荷軽減を進め、環境保全と生産性の調和と農業経営面（採算性）に留意した大阪エコ農業を推進すること。

(内容)

化学合成農薬と化学肥料の使用を従来の半分以下で生産した農産物を「大阪エコ農産物」として認証する制度を推進しました。2017年度からは「農薬・化学肥料（チッソ）不使用」の認証区分を追加しました。

また、このような栽培をした上で、さらに地球温暖化や生物多様性に効果の高い取組みをする農業生産活動に対し支援を実施しました。また、(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所と連携し病害虫防除に関する調査研究等を行いました。

(地球温暖化や生物多様性に効果の高い取組みの例)

- ・炭素貯留効果の高い堆肥の使用：カバークロップの作付け（水稻を栽培する前の水田にレンゲを栽培し土を豊かにする）等
- ・化学合成農薬や化学肥料を全く使わない有機農業：生物農薬の使用等
- ・農薬使用量の低減：飛ばないテントウムシや捕食性カブリダニ類などの天敵活用等



大阪エコ農産物認証マーク



飛ばないナミテントウ



スワルスキーカブリダニ

<2018年度の実績>

認証面積：529ha
認証件数：4,903件

【農政室 06-6210-9590】

化学物質に関するリスクコミュニケーションの推進

■ 化学物質に関するリスクコミュニケーションの推進

[一千万]

(目的)

化学物質による環境リスクに関する科学的な知見・情報を府民・事業者・行政が共有し、相互理解を深めるための対話である「リスクコミュニケーション」の取組みを推進すること。

(内容)

化学物質の排出削減やリスクコミュニケーションの重要性について、府民・事業者等の理解を深めるため、化学物質対策に関するセミナーを開催し、府民・事業者・行政の対話の推進を図りました。



化学物質対策セミナー

<2018年度の実績>

化学物質対策セミナー開催：1回（399人参加）

【環境管理室 06-6210-9578】

残留性有機汚染物質や汚染土壌等の適正管理・処理

■ 土壌・地下水汚染対策の推進

[219 千円]

(目的)

土壌汚染の早期発見、汚染土壌の適正な管理・処理による周辺住民の健康影響の防止、事業場における土壌汚染の未然防止及び地下水汚染対策を推進すること。

(内容)

土壌汚染による府民の健康影響の防止を図るため、土壌汚染対策法及び大阪府生活環境の保全等に関する条例に基づき、引き続き土地の所有者等が行う土壌の汚染状況調査や汚染の除去等の措置について指導を行いました。

また、有害物質を使用している事業場における土壌汚染の未然防止のための漏えい防止対策や、事業者による地下水汚染対策が適切に推進されるよう指導を行いました。

2017年5月に土壌汚染対策法が改正され、土地の汚染状況を把握する機会の拡大などが行われることとなりました。このため、改正された土壌汚染対策法と整合を図るため、条例に基づく土壌汚染対策のあり方について、2018年度に引き続き検討を行い、その結果に基づいて条例を改正しました。



汚染土壌掘削工事の現地確認状況（地下水位の確認）

<2018年度の実績>

土壌汚染状況調査・対策が適切に行われるよう土地の所有者等に対し指導を行いました。また、有害物質を使用している事業場に対して、土壌・地下水汚染の未然防止策について指導しました。

【参考】

- ・形質変更届出件数：45件
- ・調査結果報告件数（法・条例・自主）：8件

【環境管理室 06-6210-9579】

[]内の数字は2018（平成30）年度決算額

Ⅲ 魅力と活力ある快適な地域づくりの推進

大阪は、その魅力と活力に惹かれ多くの人々が暮らし、働き、訪れる地域ですが、一方で、ヒートアイランド現象やいまだ多数の苦情がよせられる騒音・振動等の都市部特有の問題、「雑然としている」などのマイナスイメージもあります。

今後、日本全体の人口が減少していくなかで、引き続き都市の活力を維持していくためには、快適な生活環境が確保された「暮らしやすい」、「働きやすい」、「訪れたい」都市を目指し、大阪の特徴を活かした質の高い都市環境を創造し、魅力と活力を高めていく必要があります。

～「暮らしやすい」、「働きやすい」、「訪れたい」都市を目指して～ 緑と水辺の保全と創造

■みどりの風を感じる大阪



魅力ある景観、歴史的・文化的環境の形成

■魅力ある景観の形成

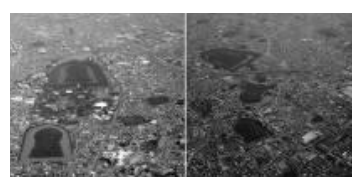
■歴史的・文化的環境の形成



千早赤阪村下赤阪の棚田の風景



富田林市寺内町の町並



百舌鳥・古市古墳群

快適で安らぎのある都市環境の形成

■騒音・振動の防止

■ヒートアイランド現象の緩和



屋上緑化



透水性・保水性舗装



太陽熱の高反射舗装

2018 年度の主な施策・事業と実績

緑と水辺の保全と創造

■ 「みどりの風を感じる大都市・大阪」の推進

[27,667 千円]

(目的)

都市魅力の向上につなげる都市緑化を一層前に進めていくため、部局連携による取組みを進め、民間主体の面的・線的なみどりのまちづくりの促進等により、みどり豊かな魅力あふれる大阪の実現を図ること。

(内容)

「実感できるみどりづくり事業」により、まちなかでの民間事業者やまちづくり協議会等が主体となった街区単位等のみどりのまちづくり、「みどりの風促進区域(※)」での民間事業者や地域住民が連携して取り組む沿道での緑化活動について、緑化施設整備や緑化プランの作成等にかかる経費を補助しました。

○実感できるみどりづくり事業の概要

- ・市街地中心部や駅前等で、緑陰等の整備とあわせて、周辺地域への緑化促進活動に取り組む民間事業者を、「実感・みどり事業者」として認定し、事業者が行なう緑陰等の整備、街区単位等での緑化プランの策定、緑化プランに基づく周辺地域での緑化施設整備にかかる経費を補助します。
- ・緑化意欲の高い「まちづくり協議会」やみどりの風促進区域での民間事業者や地域住民が連携して行なう緑化プランの策定や緑化プランに基づく緑化施設整備にかかる経費を補助します。

(※)「みどりの風促進区域」

道路など公共空間と沿線民有地を一体的に緑化し、海と山をつなぐみどりの軸線の形成を目指すもの。

街路樹等の公共空間のみどりの充実と併せ、沿線民有地等の緑化支援、民間建築物への都市計画手法(容積率、建ぺい率の緩和等)等による緑化誘導を実施。

○その他

みどりづくり推進事業、地域緑化推進事業、みんなで育てる花いっぱいプロジェクト、マイツリー事業 など

<2018 年度の実績>

- ・「実感・みどり事業者」が行う、緑陰や府民が憩える緑化施設の整備等 1 地区
- ・みどりの風促進区域で、地域単位の緑化プラン策定、緑化施設の整備等 5 地区



民有地沿道部の
緑化のイメージ



良好な緑陰空間
のイメージ

【みどり推進室 06-6210-9558】

【都市計画室 06-6944-9274、06-6944-7459】

■子育て施設木のぬくもり推進事業

[46,175 千円]

(目的)

保育所や幼稚園の子育て施設の床や壁といった内装の木質化を進めることで、木材利用を促進し、木質化の効果をPRするとともに、森林の大切さや木材に対する理解を深める「木育」の促進を図ること。

(内容)

内装の木質化を実施する幼稚園及び認可保育所（認定こども園を含む）に対して補助を行いました。

子どもの育成環境に良い効果を与え、森林の大切さや木材に対する理解を深める「木育」の促進を図るとともに、木材利用の拡大により森林の手入れが進むという流れが形成されることで、良好な森林環境の保全につながりました。

<2018 年度の実績>

子育て施設の内装木質化 31 施設



保育所の内装木質化

【みどり推進室 06-6210-9556】

魅力ある景観の形成

■府道緑化事業

[834,325 千円]

(目的)

都市の景観形成や環境改善等多様な役割を果たす街路樹を、適切に維持管理を行い、良好な道路環境整備を推進すること。

(内容)

劣化や腐朽による倒木や枝折れ、道路構造との不適合による根上がり等を引き起こす可能性のある街路樹については、大阪府都市基盤施設長寿命化計画に基づき、路線の重要度、樹木の健全度、植栽基盤の状況などから優先順位を設定し、順次樹木更新を実施しました。また、定期的な点検を行うことで、倒木や枝折れの発生を予防し、良好な道路環境の創出を図りました。

<2018 年度の実績>

- ・街路樹の更新・補植 高木：264 本 低木：8,157 本

【参考】2017 年度実績

- ・街路樹の更新・補植 高木：285 本 低木：約 8,839 本



府管理道路の街路樹整備状況の例（箕面摂津線）

【都市計画室 06-6944-9314】

■ 美しい景観づくり推進事業

[722 千円]

(目的)

「大阪府景観計画」等による適切な規制誘導の実施や、景観資源の発掘及び情報発信等を通じて、良好な景観形成を図ること。

(内容)

「大阪府景観計画」等による適切な規制誘導を実施し、良好な景観形成を図りました。

また、府民・事業者・行政による「大阪美しい景観づくり推進会議」の実施、地域の優れた景観資源の発掘・情報発信、景観上優れた建物等を表彰する「大阪都市景観建築賞」の実施などを通じて、府民等の景観に対する関心づくりに取り組み、良好な景観形成につなげました。



第37回大阪都市景観建築賞大阪府知事賞
(ダイキン工業テクノロジーイノベーションセンター)

〈2018年度の実績〉

- ・2019年3月に大阪美しい景観づくり推進会議の総会・講習会を実施しました。
- ・大阪都市景観建築賞では、府民、市民から景観上優れた「建物」、「建物を中心としたまちなみ」を推薦してもらい、その中から周辺環境の向上に資し、かつ景観上優れたものを表彰すること等により、個性と風格のある都市景観の形成に寄与するとともに、都市景観に対する意識の高揚を図りました。

【建築指導室 06-6210-9718】

歴史的・文化的環境の形成

■ 指定文化財等の保全・活用と次世代への継承

[21,071 千円]

(目的)

大阪府の誇る指定文化財等の貴重な文化遺産を適切に保存・活用するとともに、これを確実に次世代に継承することによって、郷土への誇りや伝統・文化を尊重する心を育むこと。

(内容)

大阪府内に所在する各種文化財の把握に努め、特に価値が高いものについては、文化財指定等による保存の措置を講じました。

また永くこれを伝えていくため、必要な修理や防災設備の新設・点検・改修等が滞りなく進められるよう、専門的見地からの技術的支援を行うとともに、必要な場合は補助事業として財政的支援を行いました。



有形文化財（建造物）

おのしんじゅ

男神社本殿

〈2018年度の実績〉

- ・文化財指定、登録の推進 41件
- ・文化財保存修理等補助事業 20件

【教育庁文化財保護課 06-6210-9900】

暮らしやすい快適な都市環境の確保（騒音・振動の防止）

■騒音・振動の防止

[9,968千円]

（目的）

工場・事業場、建設作業及び道路等からの騒音・振動を防止し、生活環境の保全を図ること。

（内容）

幹線道路沿道における自動車騒音、大阪国際空港及び関西国際空港の周辺地域における航空機騒音、新幹線鉄道騒音に係る環境基準の達成状況を把握し、関係機関に低騒音舗装や低騒音型機材への代替などの対策の推進を働きかけました。

また、工場及び建設作業等の騒音・振動の規制権限を有する市町村において規制・指導の徹底が図られるよう、必要な技術的支援を行いました。

さらに、子ども施設における騒音等の苦情を未然に防止し、施設と地域との共生を目指すため、「子ども施設環境配慮手引書」について関係者等への普及に努めました。



航空機騒音の測定



子ども施設環境配慮手引書

<2018年度の実績>

- ・自動車騒音モニタリング調査について 10 町村域で実施
【参考】幹線道路沿道における環境保全目標の達成率は横ばい（2017 年度 94.1%（評価戸数 877 千戸））
- ・航空機騒音の測定について
大阪国際空港周辺では、府が測定した 5 地点のうち、1 地点で環境保全目標を達成
関西国際空港周辺では、2 地点全てで環境保全目標を達成
- ・市町村研修会 年間 3 回開催
- ・「子ども施設環境配慮手引書」の活用事例の HP 開設

【環境管理室 06-6210-9588】

■沿道環境改善事業

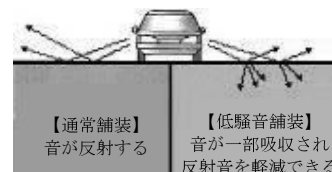
[295,501千円]

（目的）

府が管理する道路において、騒音対策として低騒音舗装（排水性舗装）を実施し、沿道の環境改善を図ること。

（内容）

環境基準の達成状況が悪い区間（騒音対策区間）において、路面の損傷状況に応じた補修を行う際に、低騒音舗装（排水性舗装）を実施することにより、騒音の低減を図り沿道環境を改善しました。



低騒音舗装による騒音対策

<2018年度の実績>

- ・国道 423 号、大阪中央環状線 等

【交通道路室 06-6944-9291】

暮らしやすい快適な都市環境の確保（ヒートアイランド現象の緩和）

■ クールスポットモデル拠点推進事業

[3,618千円]

（目的）

屋外空間における夏の昼間の暑熱環境の改善を図ること。

（内容）

府域におけるクールスポットの増加を目指し、モデルとなる先進的なクールスポットを整備する事業を民間事業者から公募し、緑化と併せ、遮熱塗装やミスト発生器等の整備に係る費用の補助を行いました。



整備したクールスポット一例
（大阪経済大学）

〈2018年度の実績〉

次のクールスポットの整備に対し補助

- ・大阪経済大学クールスポット整備事業（大阪市東淀川区）

【エネルギー政策課 06-6210-9553】

暮らしやすい快適な都市環境の確保（悪臭の防止）

■ 悪臭防止規制指導に関する市町村支援

[10千円]

（目的）

悪臭規制事務を担当する府内の市町村が適正な悪臭規制を推進できるよう市町村への支援を行うこと。

（内容）

市町村からの悪臭規制、指導に関する問合せの対応や悪臭防止法施行状況調査の取りまとめを通して、悪臭規制事務で市町村が苦慮している点や府内の悪臭苦情の現状を把握しました。

そのうえで市町村職員を対象に研修会を開催し、臭気測定実習等の技術的支援を行うほか、各市町村での悪臭苦情事例等の情報共有や意見交換の場を設けることで、事務の処理方法や悪臭苦情の対応方法等の習得を支援しました。

なお、近年の悪臭苦情は工場から発生する単一の匂い物質のほか、飲食店等から発生する様々な匂い物質が入り混じったいわゆる複合臭の事例が多いことから、これまでの特定悪臭物質規制に代わり、府民の悪臭に対する被害感覚と一致しやすい「臭気指数規制」を市町村が導入するよう、情報提供などの支援を実施しました。

〈2018年度の実績〉

- ・市町村からの悪臭規制、指導に関する問合せへの対応。
- ・悪臭防止法施行状況調査の取りまとめ。
- ・市町村悪臭規制担当職員研修会の実施（10月12日）



研修会でのグループ
ディスカッションの様子

【環境管理室 06-6210-9581】

■ 地盤沈下対策に係る規制指導

[2,781 千円]

（目的）

地盤沈下を未然に防止するため、工業用水法及び大阪府生活環境の保全等に関する条例に基づく地下水採取の規制等を行うこと。

（内容）

工業用水法及び大阪府生活環境の保全等に関する条例に基づく許可の審査のほか、地下水採取の実態を把握するため、地下水の採取量について報告の徴収を行い、必要に応じ事業者に対し指導を実施しました。

また、府内の地盤沈下の状況を把握するため、15箇所の地盤沈下・地下水位観測所において地盤沈下量と地下水位の観測を行いました。



地盤沈下・地下水位観測所

〈2018 年度の実績〉

- ・地盤沈下の未然防止のため、工業用水法に基づく許可に係る審査を行うほか、地下水の採取量について報告の徴収を行いました。また、地盤沈下観測所において地盤沈下量と地下水位の観測を行いました。

【参考】

- ・地盤沈下量、地下水位の観測（15 か所）
- ・工業用水法に基づく許可を受けている井戸の件数 76 件
- ・地下水採取量報告徴収件数 1,353 件

【環境管理室 06-6210-9579】

[]内の数字は2018（平成30）年度決算額

IV 施策推進に当たっての視点

2018年度の主な施策・事業と実績

産業のグリーン化

■環境技術コーディネート事業

[- 千円]

(目的)

大阪発の優れた環境技術の普及を通じて環境保全を推進すること。

(内容)

(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所と連携し、大阪府内の中小・ベンチャー企業によって開発された先進的な環境技術・製品を技術評価し、高い評価を受けたものについては「おおさかエコテック」の称号を授与する取組みを行っています。展示会・ホームページ・メールマガジン等を通じ、その普及を行いました。



おおさかエコテック
ロゴマーク

(このロゴマークは、高い評価を受けた環境技術・製品に使用が認められます。)

<2018年度の実績>

- ・おおさかエコテック技術評価 0件
- ・展示会出展等 4回
- ・メールマガジンの発行 18件

【エネルギー政策課 06-6210-9287】

環境関連産業の成長促進

■新エネルギー産業電池関連創出事業

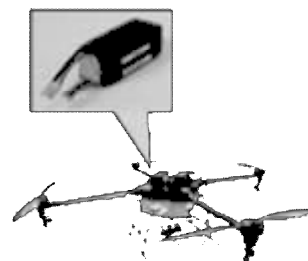
[15,270千円]

(目的)

蓄電池、水素・燃料電池等の新たな市場・用途開拓に向けて、商品化が期待できる先進的な取組みについて、事業化を加速させるため、その研究開発や実証経費等の支援を行うこと。

(内容)

府内企業が取り組む、電池、電池の材料、電池関連装置、ロボットをはじめとした電池アプリケーションの研究開発・実証実験等に要する経費を一部補助しました。



農業用マルチコプターの
高出力バッテリー

<2018年度の実績>

採択企業毎に2回以上/年のフォロー

【産業創造課 06-6210-9295】

■ 中小企業スマートエネルギービジネス拡大事業

[1,751千円]

(目的)

成長が期待されているスマートエネルギー分野で、府内中小・ベンチャー企業の優れた技術力を活かしていくため、オープンイノベーションの各種コーディネートを通じ、参入を目指す意欲的な中小・ベンチャー企業の支援を行うことで、この分野への参入促進及びビジネス拡大を図ること。

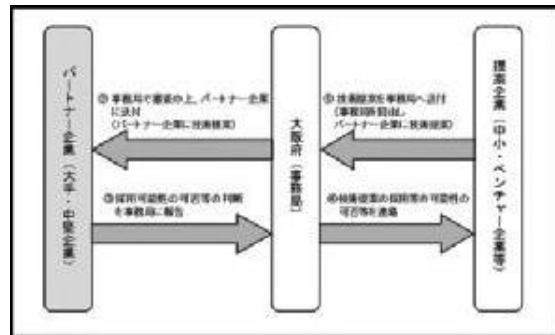
(内容)

【オープンイノベーションのコーディネート】

- ・スマートエネルギー関連の大手・中堅企業（パートナー企業）で構成するプラットフォーム「大阪スマートエネルギーパートナーズ」を運営。中小・ベンチャー企業の技術提案をパートナー企業につなげることで、オープンイノベーションをコーディネートしました。
- ・産業支援機関の専門アドバイザー等がパートナー企業の技術ニーズを聞き取り、中小企業等の技術提案につなげるクローズド型のコーディネートに加え、技術ニーズとシーズをマッチングするためのニーズ説明会について、参加者に制限を設けず開催するフルオープン型や、アドバイザー等に限定するセミオープン型のコーディネートを実施し、コーディネート手法を多様化しました。

【中小・ベンチャー企業への技術提案支援】

- ・スマートエネルギー分野への参入を目指す中小企業・ベンチャー企業を対象とした戦略的技術提案講座、事業化支援セミナーを開催し、オープンイノベーションによる当該分野への参入を後押ししました。



マッチングのスキーム

<2018年度の実績>

企業訪問件数 185件/年

【産業創造課 06-6210-9295】

地域主権の確立・広域連携の推進

■ 市町村への権限移譲における技術的支援

[- 千円]

(目的)

府民に身近な自治体である市町村が、地域の実情に応じて、自らの責任と判断のもと、環境対策を実施できるよう、「大阪発“地方分権改革”ビジョン改訂版」（2017年3月）に基づき、府が有する環境分野の規制権限の市町村への移譲を進めること。

(内容)

府から移譲する権限を各市町村が適切かつ円滑に行使できるよう、府は、ヒアリング等により各市町村の要望の把握や情報交換に努め、統一的な法令の運用・解釈の提示、市町村職員を対象にした研修会・勉強会の開催、研修生の受入れ等、各市町村の要望に応じた技術的支援を行いました。



市町村職員を対象にした実務研修

<2018年度の実績>

- ・市町村連絡会議を開催（2回）
- ・寝屋川市からの研修生を受け入れ（2名）
- ・研修会を実施（7回）

【環境管理室 06-6210-9581】

（目的）

関西広域連合での温室効果ガス削減のための取組みや府県を越えた鳥獣保護管理の取組み等の広域的な環境保全の対策を推進すること。



（内容）

地球環境問題に対応し、持続可能な社会を実現する関西を目指すため、「再生可能エネルギーの拡大と低炭素社会づくりの推進」、「自然共生型社会づくりの推進」、「循環型社会づくりの推進」、「環境人材育成の推進」の取組みを実施しました。具体的には、温室効果ガスの排出削減に係る住民や事業者に対する啓発事業として、省エネのはたらきかけや関西エコスタイルキャンペーンを実施するとともに、再生可能エネルギーの導入促進、電気自動車や燃料電池自動車の普及促進事業等、広域的な温室効果ガス削減対策の取組みを進めました。また、二ホンジカについては、被害状況の把握や広域的な対策の検討、モデル地域での実践を行い、効果的・効率的な被害対策を進めました。

関西広域連合シンボルマーク

〈2018年度の実績〉

広域環境保全計画に基づき、下記分野について取組みを進めました。

【温暖化対策】

- ・再生可能エネルギー導入促進に向けた人材育成研修会を開催しました。
- ・関西エコスタイルキャンペーン等を実施しました。
- ・関西エコオフィス運動を展開しました。（関西広域連合内のエコオフィス宣言登録事業所 1765 事業所
（2019年2月26日現在）
- ・次世代自動車写真コンテストの実施や広報リーフレットの作成・配布を実施しました。

【自然共生型社会づくりの推進】

- ・カワウのモニタリング調査(3回/年)を実施し、捕獲手法の開発検討等カワウ対策の推進を実施しました。
- ・二ホンジカ等の被害や捕獲体制の把握を行うとともに、二ホンジカの効果的・効率的な被害対策を進めるための人材育成研修を実施しました。

【循環型社会づくりの推進】

- ・マイバック運動やマイボトル運動の推進など 3R の推進に向けた統一的な啓発を行いました。

【環境人材育成の推進】

- ・幼児期環境学習の推進のため、研修会を実施しました。
- ・地域特性を活かした交流型環境学習事業を実施しました。

【エネルギー政策課 06-6210-9287】

【循環型社会推進室 06-6210-9566】

【環境管理室 06-6210-9586】

【動物愛護畜産課 06-6210-9619】

【産業創造課 06-6210-9485】

【地域主権課 06-6941-1705】

[]内の数字は2018（平成30）年度決算額

V その他（共通的事項）

2018年度の主な施策・事業と実績

環境影響評価制度の推進

■環境影響評価制度

[247 千円]

（目的）

環境影響評価法及び大阪府環境影響評価条例に基づき環境アセスメント手続を行うことにより、大規模事業に係る環境保全について、適正な配慮がなされることを確保すること。

（内容）

学識経験者により構成される環境影響評価審査会の調査審議が円滑に行われるよう事務局として同審査会を適切に運営しました。また、環境影響評価法等の対象事業について、環境影響評価図書の作成を指導するとともに、事後調査報告書の提出を受けて対象事業の実施による環境影響及び環境保全対策の履行状況を確認し、必要に応じ事業者に環境保全についての措置を講じるよう求めました。



環境影響評価審査会による
事業計画地の現地調査

〈2018年度の実績〉

京都府環境影響評価条例に基づく方法書について、環境の保全の見地から知事意見を京都府に提出しました。

また、事後調査報告書の提出を受けて対象事業の実施による環境影響及び環境保全対策の履行状況を確認しました。

- ・ 審査を行った方法書
枚方京田辺環境施設組合可燃ごみ広域処理施設整備事業
- ・ 縦覧に供した事後調査報告書等
東部大阪都市計画ごみ焼却場四條畷市交野市ごみ処理施設整備事業等、計5事業

【環境管理室 06- 6210-9580】

■ 大気汚染常時監視

[127,086 千円]

(目的)

府域の大気汚染状況の常時監視、分析を行い、環境基準の適否など環境の現状を把握するとともに、健康被害等の未然防止を図ること。

(内容)

大気汚染測定局を整備するとともに国設測定局の維持管理を受託し、大気汚染状況を連続的に監視し、環境基準の適否を評価、公表しました。また、光化学スモッグ注意報等の発令、周知を行いました。

微小粒子状物質（PM2.5）について、常時監視及び成分分析を行い、環境の現状を把握しました（成分分析は、（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所により実施）。

長期間の暴露により健康被害が懸念される有害大気汚染物質について、汚染状況の把握のための調査を実施しました（分析は、（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所により実施）。

健康被害が懸念される石綿について、大気中濃度を経年的に監視しました。



大気汚染の自動測定機

<2018 年度の実績>

- ・大気汚染常時監視局 28 局（国設局 2 局を含む）
- ・微小粒子状物質監視 26 局（国設局 2 局を含む）、成分分析 2 地点
- ・有害大気汚染物質モニタリング 7 地点
- ・石綿環境モニタリング 4 地点

【環境管理室 06-6210-9621】

■ 公共用水域常時監視

[54,859 千円]

(目的)

公共用水域及び地下水の水質を常時監視し、環境基準の適否など環境の現状を把握すること。

また、環境省からの受託により大阪湾の水質等の調査を実施すること。

(内容)

河川及び海域における水質等の常時監視を行い、環境基準の適否を評価、公表しました。

地下水質の常時監視（概況調査、継続監視調査、汚染井戸周辺地区調査）を行い、環境基準の適否を評価、公表しました。

環境省からの受託により、大阪湾を含む瀬戸内海における水質汚濁、富栄養化の実態を広域的かつ統一的に把握するための調査のうち、大阪湾の調査を行いました。



河川の調査風景

<2018 年度の実績>

- ・河川（水質 57 地点、底質 29 地点）
- ・海域（水質 15 地点、底質 15 地点）
- ・地下水質（概況調査 24 地点、継続監視調査 46 地点）
- ・環境省受託調査 大阪湾海域（水質 7 地点、底質 2 地点、マクロベントス（底生生物）2 地点）

【環境管理室 06-6210-9621】

■ ダイオキシン類常時監視

[11,274 千円]

(目的)

ダイオキシン類について、府内の環境状況を継続的に把握すること。

(内容)

ダイオキシン類対策特別措置法に基づき、大気、河川・海域（水質、底質）、地下水質、土壌のダイオキシン類の常時監視を行い、府内の汚染状況を把握しました。

<2018 年度の実績>

大気 11 地点、河川水質・底質 22 地点、海域水質・底質 5 地点、
地下水質 10 地点、土壌 10 地点



大気試料の採取風景

【環境管理室 06-6210-9621】

環境保健対策及び公害紛争処理

■ 公害審査会

[186 千円]

(目的)

公害紛争処理法に基づき、知事の附属機関として公害に係る紛争について調停、あっせん、仲裁を行い、府域の紛争解決に取り組むこと。

(内容)

公害審査会は、府民、事業者等から公害紛争処理法に基づく調停申請があれば、当事者同士の話し合いによる紛争の解決を図るため、「調停委員会」を設置して迅速かつ適正に手続きを進めました。

また、公害審査会全体会議を開催し、審査会委員が所属中の公害調停の進捗状況について意見交換を行いました。

<2018 年度の実績>

2017 年度からの繰越 4 件
2018 年度 新規受付 5 件
 終結 5 件
2019 年度への繰越 4 件



公害審査会全体会議
(年 2 回開催)

【環境管理室 06-6210-9580】

[]内の数字は2018（平成30）年度決算額

大阪府環境白書の全体版は、
以下のHPで公開しています。

http://www.pref.osaka.lg.jp/kannosuisoken/hakusyo/hakusyo_2019.html

大阪府 環境白書

で

検索

し、2019年版をクリック！

【掲載内容】

- 2018年度における環境の状況及び講じた施策
- 環境関係データ
 - 1 府域の概要データ
 - 2 基本的施策に関するデータ
 - 3 廃棄物関係データ
 - 4 地球環境関係データ
 - 5 自動車関係データ
 - 6 大気環境関係データ
 - 7 水環境関係データ
 - 8 地盤環境関係データ
 - 9 騒音・振動関係データ
 - 10 化学物質関係データ
 - 11 環境保健対策等関係データ
 - 12 自然・都市環境関係データ
 - 13 環境保全活動関係データ
 - 14 大阪府庁の事務事業における環境負荷データ
- 環境関係データ（詳細編）
 - 1 大気関係データ
 - 2 水質関係データ
 - 3 地盤環境関係データ
 - 4 騒音・振動関係データ
 - 5 有害化学物質関係データ
 - 6 環境保全関係データ
 - 7 自然・都市環境関係データ
 - 8 情報発信関係データ
- 環境総合計画部会における新環境総合計画の点検評価（毎年度サイクル）
- 2019年度において豊かな環境の保全及び創造に関して講じようとする施策

※掲載内容は変更する場合があります。

《表紙について》

豊かな環境づくり大阪府民会議主催 『おおさか環境デジタルポスターコンテスト2019』
サイネージ部門 最優秀賞受賞作品 『いきものを苦しめないで!』（作者：横山 真貴子さん）

《裏表紙について》

豊かな環境づくり大阪府民会議主催 『おおさか環境デジタルポスターコンテスト2019』
ビジョン部門 最優秀賞受賞作品 『最後の晚餐』（作者：出原 桜子さん）



「彼の最期の晚餐は
6キロの
プラスチックでした。」

海に流れ込んだプラスチックを飲み込み
多くの生き物が命を落としています。



大阪府

環境農林水産部エネルギー政策課 令和2年1月発行
〒559-8555 大阪市住之江区南港北1-14-16大阪府咲洲庁舎22階
TEL 06(6210)9549 / FAX 06(6210)9259

リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。